京城日報
二十七日夕刊（朝夕刊併せて八頁）

東露の形勢

▲過激派大敗

國民大隊終に降を軍門に乞ふ 四十分間の激戰=リ會長逃亡

鐵道側對過激派の抗爭は支那軍隊の武力に依り鐵道側の勝利に歸したるが支那側は過激派の一掃を期する爲め過激派の主力たる第六百十八及び第五百五十九兩國民大隊の武器引渡及び解散を要求せしも過激派は窮鼠猫を咬むの態度にて頑强に之を拒絕したる爲め支那軍は一萬と稱する兵數の大部隊を動かし二十六日午前八時半より哈爾賓の中心點なるアフツエルスカヤ街の同兵營に向て一齊射擊を開始し露兵又之に應戰し三四十分間は烈しき戰鬪行はれたるも衆寡敵せず國民大隊は遂に白旗を揭げ支那軍門に降伏せし爲め支那兵は直ちに兵營より無數の武器を押收し道路に山積し猶盛に示威運動を爲せるが一時は銃聲全市を震撼し爲めに市民は恟々として如何になり行くかと不安の極に達せり兵營附近は一切交通遮斷の爲め兩軍損害等に就きては未だ詳細を得難し、市內は十時頃より稍平穩に歸し平常と異らざるに至り日本人には何等の損害等無かりしが支那人二三露人四五の死傷を出したり尙一露士官はリウチン過激派會長は何れにか遁走せりと語れり(哈爾賓特電)

▲支那軍兵營包圍

支那官憲は過激派に對し國民大隊の解散を要求したるも過激派之に應ぜず依つて支那軍は二十五日夜停車場大隊兵營を包圍し目下交戰中なるが在留邦人は安全なり(哈爾賓特電)

▲西伯利政府成立

西伯利某所よりの報道に依ればボタニー氏を首相とする西伯利政府成立し司法大臣にはケレンスキー氏の名も見ゆるが其の眞僞尙明確ならず(哈爾賓特電)

○日伊通商條約承認

日本伊太利通商條約案は二十六日開會の樞密院會議に於て承認を經同院を通過せり(東京電報)

◉レーニン派面會を謝絕さる

去る十三日過激派の外相トロツキー氏は公務を帶びてペトログラード駐在英國大使ビユカネン氏を訪ひしも英國大使はレーニン派の政府を認めざる旨にて面會を謝絕し又去る廿日浦鹽に於けるレーニン派の代表者ギルレルソン博士は浦鹽駐在米國領事館を尋ねしも門前拂を喰はされたるが何も懲りず同港碇泊中の米國艦隊司令官に面會を求めしが之れ又體よく刎ね付けられしと

◉ノー、ウレミヤ改題發行

レーニン派の言論壓迫の結果發行禁止の厄に遇ひしノー、ウレミヤは此度ウートロ(朝)と改題して發行しつゝありと

◉明年豫算(二)

豫算內示會に於ける當局の說明

▲農商務省所管

經常部●
海洋調査に關する經費　三萬四千圓
大阪工業試驗所設置に關する經費　八萬圓
製藥試驗所設置に關する經費　三萬八千圓
畜病豫防費補助の增加　二十六萬九千圓

臨時部●
漁業獎勵金の增加　旣報
農業倉庫建設獎勵金の增加　旣報
土地利用に關する經費　旣報
綿羊飼育獎勵に關する經費　旣報
蠶絲他業獎勵に關する經費　旣報
製鐵所擴張費の追加　十一萬八千圓
臨時窒素研究所設置に關する經費　十一萬九千圓
海洋調査に伴ふ新營費　十萬九千圓
大阪工業試驗所設置に伴ふ新營費　七十萬圓
製藥試驗所設置に伴ふ新營費　六萬四千圓

▲遞信省所管

基金及び公債●
大正七年度に於て一般會計より國債整理基金に繰入るべき金額は一億三千九百五十一萬七千圓にして右の內公債の償還に充つべき金額は五千萬圓なり但し大正八年度以降に於ては之を三千萬圓に止むる評議なり又電話交換擴張費の財源として公債を募集し帝國鐵道の建設及び改良費の財源として公債を募集すべき金額は二千五百萬圓なり

經常部●
海外電信支拂金の增加　三百七十四萬六千圓
電話交換擴張に伴ふ維持費　九十九萬圓
通信事業擴張及び擴張に伴ふ經費　五十三萬一千圓
郵便電信電話事務擴張に關する經費　五十五萬二千圓
百三十一萬九千圓
恩給の增加

臨時部●
海員養成補助の增加　二萬五千圓
東京京城間電信線路增設費三十三萬四千圓(但し總額七十一萬二千餘圓にして二箇年度間の繼續費なり)
內地各地間電信線路增設費
無線電信局設置に要する經費　旣報

▲公債支辨事業

朝鮮に於ける公債支辨事業の財源として公債を募集すべき金額は一千三百二十三萬五千圓なり

右の外若干及樺太各特別會計所屬に於て公債支辨事業經費の調査中に屬するものあり又大正三年臨時事件に關する經費の財源として公債又は借入金を計上したる金額は臨時事件經費特別會計に於て借入金及公債募集金三千百十九萬四千圓大正三年臨時事件豫備費に於て二千二百萬圓なり

▲臨時事件經費

大正七年度に於て臨時事件に關する經費の概計額を示せば左の如し

歲入●
軍資金　三千二百九十四萬六千圓
官有物拂下代及雜收入　百七十五萬一千圓
借入金及公債募集金　三千百十九萬四千圓

歲出●
臨時軍事費　三千二百九十四萬六千圓
陸軍省所管　五百二十二萬五千圓
海軍省所管　二千七百七十二萬一千圓
歲入歲出差引過不足なし

▲一般會計に於ける大正七年度臨時事件の歲入歲出概計

歲入●
山東鐵道收入靑島事業收入及臨時受託造修收入等　千五百七十四萬一千圓
戰時海上再保險收入　八百六十四萬八千圓
戰時利得稅　千六百萬圓
借入金　二千二百萬圓
前年度繰入金　一千九百五十七萬八千圓
計　八千二百萬圓

歲出●
臨時事件豫備費　八千二百萬圓
歲入歲出差引過不足なし。

▲歲入補塡別途收入計畫の大要

今回經常な立てたる國防の充實に要する經費は一般の歲入を以て之を支辨すること能はざるを以て之が一部の財源に充つる爲租稅の收賣益金及び通信料收入等に於て增收の計畫を立て又臨時事件に關する經費の一部財源として新に戰時利得稅を設けたり而して此の經營を立つるに當りては時局の現狀に鑑み成るべく財界の下層に屬する者の負擔を過重ならしめざらんことを顧り以て負擔の權衡を保たしめんことを期せり
右の經過に依る收入の見込概數及び經營の大要左の如し

稅目	大正七年度	平年度
租稅增收額	[illegible]	[illegible]

	增收額	
所得稅	[illegible]	[illegible]
酒稅	[illegible]	[illegible]
自家用料酒稅	[illegible]	[illegible]
備考 酒稅收入の減少		
淸凉飮料稅	[illegible]	[illegible]
砂糖稅	[illegible]	[illegible]
フエルト及メリヤス稅	[illegible]	[illegible]
賣藥稅	[illegible]	[illegible]
織物消費稅	[illegible]	[illegible]
通行稅	[illegible]	[illegible]
備考		
石油消費稅	[illegible]	[illegible]
備考 家稅	[illegible]	[illegible]
專賣益金增收額	[illegible]	[illegible]
通信收入增收額	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]
戰時利得稅收入額	[illegible]	[illegible]
合計	[illegible]	[illegible]

◉御眞影下賜

天皇皇后兩陛下の御眞影は今回左の官署學校に拜戴さるべく已に各吏員の出張命令ありたるを以て各吏員は二十八日其々御眞影を捧持し出發する事と爲りたり
▲仁川、釜山、元山、鎭南浦、四稅關
▲京城、平壤、大邱、各覆審法院 海州、釜山、光州地方法院
▲平壤中學校
▲東大門、東山(全羅北道)兩公立尋常高等小學校、永登浦公立尋常高等小學校
▲平壤鑛業所、中樞院、高等法院 總督府醫院(總計十八葉)

◉總督一行歸任

二十七日朝釜山に著したる長谷川總督、神田秘書官、齋藤大島兩副官一行は同日午後七時南大門驛著臨時列車にて無事歸任せり

◉歲末晩餐會

長谷川總督は來る三十日午後六時より南山官邸に於て歲末の晩餐會を催ほし文武官勅任以上四十餘名を招待すべく二十七日夫々案內狀を發したる由

◉露立憲君主國樹立熱望

外交案件は總て駐英大使の指揮を仰ぐ

露國に於ける無政府狀態は今更云ふべき限りにあらざれども過激派勃興當時レーニンはケレンスキー政府時代の各大臣並びに次官連に强制的辭職を强ひて承諾せざる者は盡く捕縛拘留し辭職書に署名せざる限りは何時迄も拘留すべしと脅迫せり然れども各大臣は毫も屈せず我等死すとも斷じて署名せずと斷言せし爲め、國外に亡命せる者を除きては盡く拘留せられたりこれに依つて見ればレーニン一派の政府は全く國璽なき君主同樣にして內容形式に於いて一國の政府と認むべきものに非ざるを以て反レーニン派に屬する外國駐在露國大公使團は英國駐在露國大使スタコビッチ氏を外相に戴き外交に關する案件は總て同大使の指揮を受けつゝあり且つロシヤ國內に於ける貴族社會及び知識階級の集團は立憲君主體の樹立を熱望し密かにロシヤ建國時代に多大の功勞を表はしたるリユーリック家の再興を計りつゝありと(某所著信)

◉本府新年祝賀

長谷川總督は大正七年一月一日午前十一時三十分總督官邸に於て左記各員の祝賀を受く可し
一、總督府並に所屬官署(京城、龍山)勅任官
一、總督府官房及び各部、高等官三等以下は各總代一名、判任官は各總代一名
一、所屬官署長官は各自の官署員より祝賀を受けたる後總督官邸に參集其の旨總督に申報
一、李王職は前項に準す
一、中樞院副議長、顧問、贊議、副贊議
一、朝鮮貴族
服裝服制ある者は大禮服又は通常服然らざる者は燕尾服、勳章、大授を帶ぶ

◉駐劄軍新年式

朝鮮駐劄軍司令部に於て大正七年一月一日午前十時より新年式施行すべく其の順序左の如し
一、無位無勳下士判任文官及雇員軍司令官に對し賀詞
二、將校同相當官、高等文官、御眞影拜賀(上長官以下は三名乃至五名)
拜賀順序
軍司令官、將官、同相當官(朝鮮將官も)、幕僚、法官部、經理部、軍醫部、獸醫部、軍司令部附朝鮮將校、陸軍倉庫、衛戍監獄、朝鮮步兵隊
三、下士判任文官及雇員御眞影拜賀(廳序前項に準ず)服裝は正裝(同相當服)とす但し服制なき者はフロックコート若くは羽織袴とす

◉二府令公布

敵國人等の通信取扱制限に關する府令及び南滿洲鐵道株式會社に對する府稅並に面稅賦課金の賦課に關する件は廿八日公布即日施行さる

◉救護法施行規則

軍事救護法施行規則は全文八條より成り二十七日附府令を以て發布明年一月一日より施行さるべし

◉辭令傳達式

總督府にては二十七日午後一時三十分より內鮮人高等官四十餘名の陞敍辭令傳達式を擧行し山縣政務總監より其々辭令の傳達ありたり

◉露支兵の衝突

過激派の失勢と今後の哈爾賓

露支兵の衝突に付二十六日京城某所に著せし哈爾賓電報によれば哈爾賓に駐屯し居れる支那兵は數日前より過激派軍隊に對し解散の要求をなしつゝありしが過激派軍隊は之れを拒絕せしため十五日夜來兵力を以て過激派の一個大隊を包圍し二十六日朝兩軍交戰の結果露國軍隊は遂に支那軍の捕虜となり武器を引渡せり今後市中は自ら平穩ならん

▲過激派敗因

右に付某氏は曰く露兵が手もなく支那兵の捕虜になつたと云ふのはいかにも意氣地がないやうだが、由來哈爾賓

▲露兵の精銳

は既に歐洲戰場に繰り出して後に殘つて居るのは老兵若くは若兵である、而して其の老若兵も過激派に屬いて居た所で素より心から過激派に忠義立てをし又過激派のために働かうと云ふやうな氣魄も覺悟もないのは勿論である、而して一方支那兵は如何と云ふに哈爾賓に出動してゐるのは滿洲の精兵である而して露兵の素質は劣弱加ふるに之れに後續部隊は無限と稱して可なるも彼れに其の殆んど望みなきを知つてゐる、而して其哈爾賓に於ける兩軍の數を見るも支那兵の

▲約六千

に對して過激派は二千であり、然も東淸鐵道に屬する露兵は過激派の敵でどちらかと云へば支那側である、から云ふ狀態にあるから支那兵が實勢以上に强くなり、グン〱突き込んで行つたのはありさうな事と思はれる加ふるに支那兵は東淸鐵道の奪取並に沿線の露國勢力を驅逐すると云つた風の對露硬を吹き込まれて居るのだから急に勢ひも增し酷寒の哈爾賓で一衝突をしたのであらう、唯今後は如何であるか、哈爾賓最近の形勢が不穩を呈したのは過激派橫暴のためであつた、その橫暴な

▲過激派軍隊

の大部分を捕虜にしたと云へば騷擾分子を取り拂つたやうなもので恐らく靜謐に歸しやう然しハルビンに於ける支那の勢は一層旺盛となるだらう

◉銀行券稍收縮

朝鮮銀行券の發行高は二十三四日頃六千八百萬圓臺に上りゐたるが其後歲末決濟資金の需要は少なからざるも一方極月の地稅納入期當のため一兩日來回收多く約百萬圓の收縮を示し二十七日六千七百二十萬圓となれり

◉貨物受託中止

日滿聯絡貨物中普通便扱は從來の通り受託すべきも同急行便に限り之が引受を中止せし旨滿鐵京城管理局へ通報ありたり

◎滑石採取許可

京城本町二丁目關谷太郞氏外一名の出願に係る平安南道平原郡の滑石一千五百噸は工業原料として本年十二月より向ふ五箇年間の期間を以て其の採取を許可されたり

◉大阪財界近信

▲過燐酸引上

過燐酸は東西肥料業者の解禁運動に依り政府は一部解禁の意嚮を示したる爲め人氣を引立ち相場二十錢方引返したると共に人造肥料聯合會は東京西地方は十六パーセント物七貫五百匁一圓八十錢とし關東方面は右價格より五錢引上げに協定したるが目下は安値時の思惑品各地に散在せるもの少からず好氣配の割合に買方は協定より二、三十錢方下値を唱へ協定通りには稍買澁りの狀況なり

▲セルロイド輸出頓挫

時局勃發後獨逸製品の輸出杜絕し其代用品として我國セルロイド事業は異常の發展を示し加工品は露國及び印度米國方面へ多大に輸出さるゝに至りたるが近時露國向輸出は同國混亂し居れるが故に隨つて輸出は餘儀なく杜絕さるゝに至り印度向輸出も最近減退を示すに至りたれど米國向輸出は依然旺盛を呈し居れるが主なる輸出品は散髮用櫛並に輸出ブラシの柄なりと

▲鈕釦輸出旺盛

輸出鈕釦は從來英獨方面に輸出され居りしが時局勃發後軍需品製造關係などに基き米國方面への輸出增加し異常なる發展を告ぐるに至りたるが近時上等物輸出は稍減少するに至りたる傾向あれども下等品の輸出は相變らず旺盛にして當業者にては原料の不足を歎じつゝあるが如何に輸出の旺盛なるかを察知し得べし而して米國行鈕釦の輸出は戰前大正二年上十箇月は十萬二千餘圓に過ぎざりしも本年上十箇月には百六十九萬八千餘圓に達し戰前より百五十六割五分の增加を示し居れりと

▲苛性曹達前途

苛性曹達の現況は概して十月以降持合の趨勢を脫すること能はず百封度につき二十七圓摑みを唱へられ居るが米國政府の輸出禁止は特許愈々不可能となりたるを以て前途は强含みの成行を辿るより外なかるべしと傳へられつゝあり而して當地に於ける在荷は一萬貫位ならんかと(大阪支局)

◉林公使通過

駐支林公使は二十七日夜南大門驛通過東上せり

◉軍司令官歸任

西鮮地方巡視中の松川軍司令官は豫定の如く視察を了へ廿七日午後七時十四分龍山著列車にて歸任す

◉石塚總裁出發

東拓總裁石塚英藏氏は豫報の如く二十七日午前九時三十分南大門驛發列車にて夫人令息令孃同伴別府溫泉不老町油屋旅館に向ひしが停車場には渡邊高等法院長、宇佐美、松永、小原各長官、國分次官、芳賀院長、市川少將、美濃部鮮銀總裁、三島同理事、外官民有力者並に婦人連見送り數百名に上りたり尙ほ川上理事、米山庶務課長は途中まで吉田參事は釜山まで一行を見送りたり

○內田大使の通告

場合に依りては領土的賠償を要求

內田駐露大使は過激派に對し『過激派は日本人の投資に對し安全を計る責任あり尙日本は右に關し干涉の權利を保有し場合に依りては領土的賠償を要求す可し』と通告せり(倫敦電報)

○アシアゴ突破さる

アシアゴに於ける伊軍防禦陣地は獨墺軍の猛襲により突破せられたり(倫敦電報)

○停戰命令の發表

馮總統の停戰命令は二十六日發表されたり之が爲め主戰派に屬する督軍連は大恐慌を來せり(北京電報)

○林公使安東通過

駐支公使林權助男は廿七日午前六時半來安同八時發南行せり(安東特電)

○總督釜山著發

長谷川總督一行は廿七日朝著釜午前十時發特別列車にて京城に向ふ(釜山特電)

◉持地長官巡閲

持地遞信局長官は廿七日午前十一時手塚副事務官を隨へ京城郵便局に抵り歲末の郵便事務を巡閲したり

◉市川少將催宴

市川軍參謀長は二十六日夜淸華亭に在京仁新聞通信雜誌代表者關係記者を招待張宴せしが何等四角張りし挨拶もなく主客歡談裡に十時散會せり

◉中村副事務官所屬課

總督府事務官より遞信局副事務官に轉せし中村寬猛氏は海事課兼電氣課兼務となれり

◉安藤堅次氏全快

[illegible]會計課勤務安藤堅次氏は折足のため久しく療養中なりしが此程漸く全快目下出勤しつゝあり

▲電報訂正

廿六日朝刊新勅撰議員五名中『津田伊四郞』は『和田維四郞』の誤植に付正誤す

人事消息

▲川江[illegible]局工務課長　二十六日夜龍山發釜山に向ふ
▲岩岡會寧營林署長　一月十五日より四月十五日迄岡縣に出張を命ぜらる

□東京より

丁巳歲晩。會同人設酒歡晤。賦此以似諸賢。　持地東嶺
偶無一事報皇恩。朔北炎南空耐煩。只喜邊城多好友。笑談歲晏倒芳樽。
又
曾踏山川督土功。更監驛遞扼交通。觀來冷熱異堪笑。一夢過逃塞旅中。
次韻　松田學鷗
韓海無波滿聖恩。山河又絕警烽煩。家々只得平安信。歲暮謳歌醉酒樽。
又
土木多年有偉功。更看八道計交通。人生畢竟軍忙裏。得意詩成寸暇中。

歐洲出兵論(六)

在京一記者

○吾人は世上唱ふるが如く日本の歐洲出兵を以て絕對的に不可能なりと信ずるものにあらずと雖も極めて大困難の事業として日本の爲にも聯合國の爲にも得失相償はざることを斷言せざる可からず

○試に日本兵の歐洲に出征する方面如何を論ずれば西部戰線其の一也。東部戰線其の二也。巴幹戰線其の三也。而して西部戰線に出征せむと欲せば海路輸送の計畫を完整せざる可からず。海路輸送の計畫を完整せむと欲せば先づ其の輸送に要する船腹の充實を圖らざる可からず。

○假りに日本の面目を辱しめたる程度に於て我が二十個師團を[…]軍團を西部戰線佛國方面に輸送せむと欲せば一個師團の爲に十[…]の船舶を要するものとして[…]可らず。彼の日露戰役に[…]團の爲に三百五十萬噸[…]は一個師團の爲に約十[…]するに鮮滿の如き近[…]にして足るを得たり[…]度に船舶を節約せし[…]て兵員の如きは穢に[…]ゝに足るの容積を[…]可からざりし結果に[…]れど歐洲出兵たる四[…]遠洋輸送殊に世界航[…]と稱せらるゝ紅海航路[…]を得ざるが故に兵員は[…]如きは深甚なる注意を[…]れば或は暑死の禍に遭遇する[…]れざるべく假令暑死せざる[…]上陸後或は其の用を爲さ[…]るなきを保せざるが故に一個[…]十五萬噸は決して餘裕ある[…]には非ざる也、果して然らば[…]軍團の爲には單に軍隊其ものゝ[…]を搭載するとするも遠洋航海に[…]ゆべき船舶三百五十萬噸を要せざるを得ざるべし。蓋し一回の往復に百日を要すとせば十個軍團の百日間に要する糧食、武器、被服[…]り人員、馬匹の補充等を爲さんとせば百日間最初の戰鬪能力を維持する能はず。左れば糧食彈藥の爲めに一個軍團平均二百噸を要すとせば十個軍團には二千噸を要し百日間には二十萬噸を要し其他兵員武器補充等の爲に三百五十萬噸を要するものと認めざる可からず。

○以上十個軍團を輸送するには三百五十萬噸を以て足れりとすべしと雖も若し二回以上に亘りて輸送せざるを得ざる場合には更に往復の數を增加せざるを得ざるは自明の理也。故に第一回の輸送兵團が日本を發せしより一往復百日として百五十餘日を要するを以て五個月以上を要すに非ざれば十個軍團の上陸を完了する能はざる也。

○以上は是れ豫定計畫の如く遂行し得るものとしての計算なりと雖も實際問題としては到底豫定の如く遂行する能はず幾多の困難問題に遭遇すべきことを覺悟せざる可からず。現に英國が指呼の間に於けるドーヴァー海峽を渡り百萬の兵を佛國に送るに約二箇年を要したる一例を以て之を推すも其の一斑を窺ふに足るべき也。

○十個軍團輸送の能と不能とは要するに時間の問題なりと雖も時間よりも寧ろ船舶噸數の問題也。而して船舶噸數の缺乏は歐洲西部出征の困難なる根本的問題也。

十一月一日現行

●我が醫學界の巨擘たる

青山博士の解剖

長與博士の執刀＝帝大病理解剖室にて

去る廿四日午後七時五十分青山邸に於て博士の遺骸を解剖に附せんと白布を掩ひたる擔架にて馬車に移し、岡子爵家博士及び入澤、稻田、木村、熊谷の諸博士附添ひ

▼自邸を出て赤門より入りて病理學解剖室に入れ途上大學病院醫師看護婦等は道路に整列し泫涙の目を以て見送る、午後八時長與總長を始め醫科大學教授助教授其他稻田宮本博士等の門下生各學級代表者及び近親の人々百餘名孰れも禮裝無限の憂愁を胸に裹み粛々として解剖室に入る茲に莊重なる式を行ひ執刀長與又郎博士は之に先立ち厳粛なる句調を以て『我國醫學界の巨擘たる青山博士が

▼茲に自己の解剖を命じて實際の研究に貧し以て我醫界に貢獻せられたるは重ね〴〵感謝すべき所なり』と述べ弱な如として博士の遺骸に近づき徐に刀を運ぶ頭部を檢ぶるに腦は全體に於て能く發達し殊に前頭部の著しきは博士頭腦の如何に明晰なりしかを知る續いて心臟を切開すれば動脈瘤を見肺臟に於ては明治十七八年頃咯血したる當時の病痕あり〳〵と認め且肺臟下縁に氣腫を發見し肋膜は癒著し

▼食道異狀は之を認めざるも胃の近接部は肥厚を見、胃の上口より噴門に至る間甚しく癌の冒す所となり一部は食道の端に擴がり胃の大部分は全く破壞され、胃腔は狹まれ食道と何等選びなきの狀を示せり、是れ病床にて博士が屢々嘔吐を催せし所以なり膵臟に多少の變化膽石二個を發す、斯て午後十時半解剖を終り、各傷口は縫著され遺骸は再び白布に包まれ柩に納めて馬車に乘せ門下生及び近親者之に添ひ悲然として青山邸に護送せり時に午後十一時なりき

▼頭腦は著しく發達す

執刀せし長與博士は敬虔の態度を以て語る『病源の胃癌は案外に大きかつた、胃から膵まで

▼其の組織は殆んど失はれて萎縮し腸壁も薄くなつて居た恰度餓死して居られたやうな狀態であつた、永い病床に食物を攝取せずして生命の續いたのは誠に不思議である、是は適當な手當と強健な體質とに因るのであらう、腦も萎縮して居つたが重量は千四百十匁あつて普通男子の

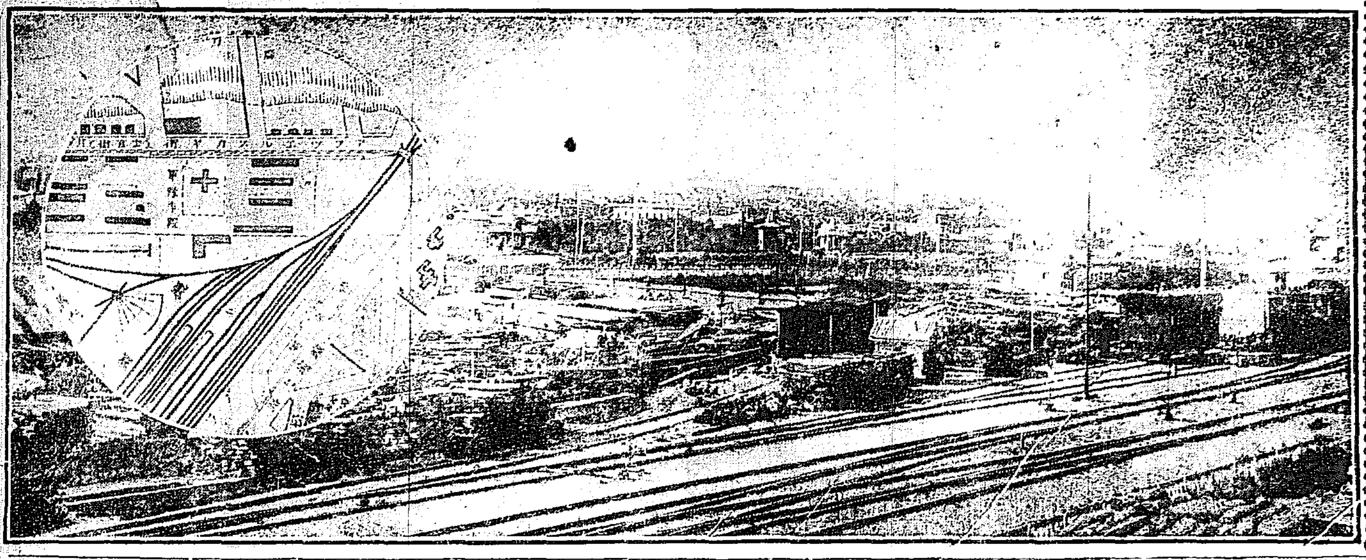
▼平均腦量 千三百五十瓦より多い、動脈は全身に至つて硬變症を認めた、之は老年者一般に有する所と同樣である、博士は生前頭が惡くなつた、多分此病氣の爲の影響であらうと言つて居られたが、今日解剖の結果腦膜炎の症狀を認めた（東京）

●上水使用量

七萬石

斷水を見るかも知れぬ＝當局の苦心

頃日來の酷寒に加ふるに年末餅搗及び掃除の爲め京城水道の使用水量は著しく激增し此が爲めに晝夜間斷なく全力を盡して水源地より送水する七萬石の上水も日々使用し盡され斷水を見るやも測られない有樣であるから水道係では係員總出を以て市內給水家を訪問して給水栓の扱ひ方並に水の節約等を懇談し且つ放水を發見した場合は直ちに停水處分を行ひつゝ有るが既に今日まで二十餘戶に達したりと尙ほ上水使用者は放水して置かば凍結を免れるものと考へて居る模樣であるが使用後鐵棒を緊く締め置くときは氷結する憂のある可き筈がない若し水道栓に故障の生じた場合は電話千九百四十九番或は二千七百九十番へ通知せらる可し



●四名燒死す

[illegible]日[illegible]頭を距れる張秋公司に於て騎馬の[illegible]の路上に於て三名の[illegible]現は馬車を脅迫し掠奪の金品も少から[illegible]五百元の[illegible]支那官憲[illegible]

[illegible]丁目にて慶山郡孤山面新新洞李花料理店方にて[illegible]際かしめんとしたを附近の人々集りて消し止めたる[illegible]が野祭須永爲治（四三）は最も消火に[illegible]したるより[illegible]

●神戸岸本銀行

取付に遭ふ

神戸岸本銀行は雲を摑むが如き噂を流布せられて取付に遭ひ四十萬圓の拂戾しを爲したり（大阪特電）

●國庫債券

一千萬圓僞造

大阪府下天王寺村久留德太郎、兵庫縣有馬郡大澤村村花作太郎兩名は國庫債券一千萬圓を僞造し之を擔保として支那政府より背銅の拂下を受けんとせし事發覺名古屋にて捕縛されたり（大阪特電）

◇砲火を交へし哈爾賓（寫眞說明）

（哈爾賓停車場構內よりアフッエルスカヤ街を望む）アフッエルスカヤ街（一名士官街）は哈爾賓停車場の正北に隣接せる今回支那軍隊の包圍一齊射擊を受けたる邊防營務兵營及び兵營寺院の北側を東西に通ずる埠頭區（外人居留地）と新市街とを限る道路なり

●漁夫六名

行衞不明となる

江原道杆城郡竹旺面五湖里河在萬（三〇）外五名は小形の漁舟にて十二月十六日午前六時頃同里の沖合に出漁中俄かに西北の强風浪に襲はれて吹き流され遂に船體諸共に行衞不明となれり船體漁具合計百十

●山中翁逝く

骨董界の耆宿山中吉郎兵衞氏は病氣にて京都にて療養中二十六日七十二歳にて逝去せり（大阪特電）

●大阪の火事

二十六日夜大阪幸町一丁目材木問屋多田商店より出火し十八軒を燒き三時間の後鎭火せり（大阪特電）

□警察署から家庭へ

◇俥の賃銀は一定してある

近來市中で俥に乘つて車夫が其の賃銀を受け取る際不當の代金を申し出るといふ苦情を警察署に屆出る向きが多いが是れは夫れ〳〵の區域間で警察署から指定した賃金が定めてあるから俥夫の方で不當の額は申受けられないことになつて居る而して各俥夫は印刷してある賃金表を携へて居るからお客の方では其の表を調べて見れば早分りのすることで別に訴へ出る程の問題でも何でもない

●大同江の結氷

大同江命令航路の休航▼命令航路中鎭南浦江浦線は結氷のため廿一日以降休航せり

●急行列車延著

二十七日朝釜山著の急行列車は二時五十分の延著の爲め連絡船に接續する能はず對馬丸は出帆せり（釜山特電）

●露國義勇艦より脫走せる見

習士官釜山で捕はる

佐世保碇泊露國義勇艦見習士官五名脫走逃亡の途二十七日朝高麗丸にて釜山に上陸せしが一行中の二名コライアルミーフ（二一）は釜山署に同行駐在露國領事立會の上取調べを受け居れり（釜山特電）

米國より京城へ

秋山生 （一）

十一月二十四日バークレーにて

△本信は米國視察中の東拓技師秋山田男氏の寄せられたものである

米國に來てから、十日以上も病床で暮さうとは全く豫期しなかつた紐育では毎日四五十人宛も、暑さで倒れるといふ異夏に、彼方此方驅け廻つて居たし、汽車が速いので一日の中に熱帶から寒帶へといふ程、氣候の變つた處へ運んで呉れるので

◆體にはたへたに違ひないし夜行だの不眠だのと隨分無理を續けたから、其負債を今此處で返せとの督促かとも思つてゐる、三日前の新聞に據ると、僕が四十日許り前に訪れたメキシコのファンス市は、叛將ピヤの一部隊に包圍されてゐるピヤが再び勢力を得、大にカランザ政府の施政を惱してゐるのは、獨逸の後援があるからだといふ、かくてアメリカの國境を騷がし、アメリカ軍隊の歐洲派遣に少しでも妨害を加へやうとして居るのださうだとの評判

◆今頃僕があの邊に行つて居たら流彈の一つ位見舞を受けたかも知れぬ、それに比べると僕び（？）が少し輕過ぎる樣でもある、然しもう起きないとやり切れない、朝から晩迄白いベットの上で、無趣味な天井ばかり眺め續けてゐるさ隨分と退屈する、けれど御蔭で京城をゆつくり思ひ浮べる事が出來る、いつもごた〳〵してゐる狹小な南大門驛もなつかしい、驛から南大門を通り拔けると、左に

◆京日の大きな建築物も見ゆる米國へ持つて來ると田舍だつたら堂々たるものだ、あの前の廣い場もサータル街道に花園など設けて飾つたらと思ふ、東拓の玄關、朝鮮の守衞、總督府の兵士、街道のポプラなどが目にうつる、思ひから思ひへ移つて、あの人にもこの人にも手紙書き度いなど思ふ、米國へ來て美しく思つたのは、水と芝生さ、廣い肥沃な未墾地だ、道を歩くと咽喉が乾く、一寸立止つてドリンキング、ファンテインの釦を押すと氷のやうな、冷い水が迸る、掬はずに噴水してゐるのもある

◆家庭の裏庭にも公園にも廣場にも運動場にも乃至は五十階の高塔の上にも水は自由である、撒水、灌漑、電力いろ〳〵に利用されてゐる。青々とした芝生、その上に可愛い小供が嬉々として戲れてゐる、米國さへ芝生の上には[illegible]しい大概の住家は芝生で圍まれ、そこに美しい花壇がある、柵無く、ありても低く優しく、花など咲て實に心地がいゝ

◆失つたギヤマンのキラ〳〵する[illegible]は仲々見當らない、殊に此邊のバンガローが多く建つので一層淋しい、運動場でも六歲以下の小供の遊ぶ所には、芝生を敷いてあるのが多い、廣い未墾地、幾十何年も無肥料で作れる沃土が、開墾するさ[illegible]も[illegible]ところに轉んでゐるには驚く。朝鮮へ少しの御土産に持つて歸り度いと思ふ、其の代り人間が足りない〳〵ここばさぬ處は無い、日給は[illegible]ごし〳〵踊る、僕ては低廉な勞働者として斥された日本人が、砂糖大根の首切り等では他に比が無く、一日に十四圓から十四圓位さへ取つてゐる。

◆某中將が此事を聞いて僕等より君等の方がよつぽどやかましいと言つたといふ、技の優劣を問はぬ一日働でも西部では七圓以下では殆んど傭へない、某博士の言に

◆文士羊羹 年末贈答用適品

●街の暮●

●龍山より

▼師團增設の影響を受けての好景氣

▼漢江架橋で永登浦から歲暮の買物

師團增設、漢江架橋などの影響を受けた今年の新龍山の景氣は非常にいゝさうだ、電車に乘つて通つて見ると歲末賣出しの最も盛んなのは舊龍山では本願寺下附近とそれから東に折れて行く榮町通り新龍山では三角地附近の漢江通りであるこれらの各町ではいづれも一寸景氣を添へてゐる。

△聯合賣出 しを、やつと眼さに比べては遙かに見劣りがするが龍山としては滅多に見られない活氣が溢れてゐる、漢江橋の開通以來龍山の市況に幾分の變動を來したことは既報の如くである、が歲末になつてからその實例が頻々として現はれて來た、昨年までは汽車で京城まで行つた者の

△半數近く は龍山に買出しに來る、舊龍山の或る吳服店の主人は景氣よく笑ひながら『今年の景氣は近頃の龍山には無いとですよ、私共の店の吳服類でもずつと上等ものは例年と大した代りもありませんが七八圓から十四五圓までの銘仙物などは若りによくでゐる』

▽懷ろ工合 がよくなつたせいであらうと思ひます』といふ赤成る餅屋は『今年は餅米が高いのでどんなものかと心配しましたが世間の景氣がいゝためかいつもよりはいゝやうなのには驚いてゐます』といふ、通りは勇ましい餅搗きの杵の音が各町の軒先きに溢れてゐる、京城などゝ違つて

▼市民全體 の往復が頻繁でその關係も餘程親密なせいか歲暮の贈答なども頗る盛んであるため賣行きも非常にいゝといふことである

く賣れます、これは師團の工事やその他で低い方の人の

據れば『豚小屋の乞食見た樣なといふ汚い百姓でも、食ふに困るといふ事を知らないやうだ、殊に當り年でメキシコのメキシカリに居る某は、八十英加（一英加は約四反二十四歩）棉を作つて去年から今年へかけては百姓の當

◆今年一年に三萬圓儲けたと云ふしカリフォルニヤーコン島の某は、去年から今年へかけて十二萬圓擱つたさ云ふ、勿論共に小作してゐる百姓だ學校の生徒も夏休には、よく田舍へ稼ぎに出るが一ヶ月働くさ御飯を食べて、尙百二十圓位握つて來る（一册は二圓さして書いてゐる）土地を見る迄は嘘だと思つた、金を握るのが人生の樂しみださしたら、アメリカは確かに西方の極樂淨土に違ひない、然し如何な人にも苦勞は絶えぬ』といふ定義は、この極樂世界にも適用するらしい。

年末掉尾の大勉強

手前共では、年内にせひ、金にかへさへすればよいと云ふのが目的ですから、勿論金にかへるのであります。それは〳〵安い事請合、迚もよそでマネの出來ない直段で、御斷ひ致しますから銘仙の御用丈は、せひとも手前共へ御聞ひ致します。

秩父銘仙 壹千反だけ

京城本町 [illegible]

電話八九〇番

商況

債券現物特電

二十七日（米通）	
東拓社債	六八、〇〇
京城電氣	五四、〇〇
朝鮮銀行	一四一、五〇
朝鮮瓦斯	一〇七、〇〇
南滿鐵道	二二〇、六〇

公債直取引

二十日出來値	
五分利	九四、三〇
四分利	[illegible]
五分	八一、七〇

大阪株式特電

銘柄	拂込	二十六日後場
京城電氣	五〇、〇〇	一〇〇、四〇
東洋拓殖	五〇、〇〇	[illegible]
東京株式	[illegible]	[illegible]
大阪株式	[illegible]	[illegible]
大阪新株	[illegible]	[illegible]

大阪三品特電

二十七日前場寄付	
十二月限	三一六、四五
一月限	三一七、八〇
二月限	三一八、九五
三月限	三一八、五五
四月限	三二一、四五
五月限	三一五、五五

大阪期米特電

二十六日前場 [illegible]

下關期米特電

	納會
二十六日前場	
中限寄付	二二、〇七
先限寄付	二三、九九
二節	八九
六節	三〇九

新甫五十錢下鞘

唱へ

雜報

●綿糸布頑强 （相場三品）

は前報の如き事情にて年末相場の一振を見せしが昨後場は一時稍呼吸の引戻し 今前場は又しも氣配直り模樣を呈し現物は[illegible]一二圓高を報じ綿布は龍レ十五錢高の十圓六十五錢[illegible]三銘先物は十四圓九十錢と同事 成行きを見ながら手强き[illegible]

●金物材の概況

金物材は前年末には例年の通り[illegible]當時獨逸の講和提唱の影響に人氣惡化して大正六年の初めには市況一層振はざりしが二月に入り米獨國交斷絶せると同時に米國の人氣を煽り本邦市場も之が影響を受けて忽ち平均一割方の市價を引締め特に平板は內地製造會社に於ける原板品切れの爲め製造休止の條件なきに至りて暴騰の步調を續け搗て〻米鐵禁輸問題の影響を蒙むる事多く結局晩夏初秋の候に至りて別表の如き高値を現出せしが其後物價調節令及び管船令等の影響を受け人氣消沈し諸品軟化し始めたるが殊に洋鐵類は相場激落し次で洋釘亞鉛共に漸落せると同時に本年末は例に依つて一段安値あるべき氣勢へなりしが此處迄づて底入れ模樣を呈し戰爭の繼續せらるゝ限り諸物價の低落は期待し難く況して外國品の供給品多き金物材は戰局の如何に拘はらず當分今日以上の相場を持續すべし

●大豆は見送り

大豆は[illegible]見送りの風情にて市況不振に一般買見送りの風情にて年末を控へ相場は十一圓二三十錢唱へ取引閑散なり

●生果類區々

相場は昨年同期に比し當業者の[illegible]四圓見當に梨四千箇の內外停滯ありたる爲め相場は一箱一圓二三十錢より飛切物にて一圓七八十錢見當なり其他林檎は內地物四圓二三十錢の唱へなるも餘り賣行き捗取らず

●機械輕油好況

機械油は久しく品付き手控へられたる結果一般に前途の[illegible]を期待し居る[illegible]の爲め輕油は[illegible]の品に伴ひ[illegible]十錢方賣值上[illegible]方騰貴せり

●工業藥品下押

手筋揃市場閑散を極め內地在荷潤澤なれば[illegible]藥品類は下押氣味を示すに至り一時[illegible]送達に相當値頃を[illegible]らるれども反動力存外に弱く技術又應折の氣配なれり六十五度硝酸二百封度入百二十封度入百封度に付き四十錢方の下落を示し 重クロム酸曹達も百五十封度入同十錢方一圓方の下落を告げ[illegible]加里も多少下落したるが唯椰子油のみは品揃底にて百斤に付一圓五十錢方騰貴せり

●綿布初値未定

綿布は年末に迫り相場の動き多き事とて市中初荷の値段及び賣出間際等に付ては各社側に於て之が發表を見合せ居れる問題側は現下三ヱ一票の實際賣買二百九十四圓より幾分上値となるべき見込みを立て居れり

品名	一月最低値段	最高値段	現在値段
[illegible]	二、三〇	四、七	三、一
[illegible]	三、〇	六、三	四、二
[illegible]	二、三〇	三、六	二、九
[illegible]	一六、六	三〇、五	二四、五
[illegible]	一六、〇	二八、〇	二〇、五
[illegible]	八、七	二四、〇	一五、八
[illegible]	二二、〇	二五、〇	二三、〇
[illegible]	二、五〇〇	一三、〇〇〇	一〇、〇〇〇
[illegible]	二、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一八、〇〇〇
[illegible]	二五〇	五六〇	三〇〇

各品は何れも一寸も暴高な豫期せられつゝあるが如し

京城正米

長湍大豆（當用）	廿四圓四十錢
汗浦大豆	十五圓三十錢
平澤大豆	十五圓三十錢
同	十五圓四十錢
慶山大豆	十五圓十錢
同	十五圓二十錢

南大門の廻穀

貿物弗々にして原料望口又進まず年末間際にして取引閑散なり相場は此數日前來持合ひて動かず各自は待ちの態度なれば年內尙々此儘に推移せんとす初相場は豫想の限りにあらざるも無論左したる變動ありとも覺えず材料如何に依つて浮動は其都度[illegible]し時に需要以外に出づべしとは一般の觀想なり

烏山玄米七五叺 烏山白米八叺 烏山玄米四八叺 烏山小豆[illegible] 烏山玄米四二叺 烏山白米一五叺 烏致院小豆六七叺 烏致院糯六〇叺 平澤白米二六叺 烏山玄米七五叺 平澤小豆二六叺 烏山白米七四叺 平澤玄米六七叺 烏山玄米七七叺 平澤玄米六七叺 烏山白米一六二叺 平澤玄米一三五叺 烏致院粗六六叺 長湍小豆二六叺 平澤糯小豆三六叺 新義州粹米二七叺 水原胡麻四七叺 金村米一九叺 江景糯七五叺 元山粟四〇叺 江景糯五〇叺 朱安白米一七叺 平澤粗一七六叺 平澤玄米一六六叺 平澤白二八〇叺 烏致院胡麻一〇八叺

各地商況

●群山米況（二十五日）

正米市場は相變雪模樣の爲めに不氣配の商狀にて昨日と變らざる閑散況なりしが一般人氣は未だ軟弱に陷れつゝある商狀なり

●木浦米況（二十五日）

玄米 移出筋は全然見送り當用筋も手持ち原料高の關係上買ものにて安品無きを以て買進まず取引皆無天候の恢復何日ともなく此上の變化ながらの調子にて年內は此儘年を越すべく不伸不振の裡に越年するものなるべし

▲穀 天候により越著品自然多少有之たる日前より賣殘り品多少有之たる賣物も鮮人筋にて弗々ながら出廻るもの[illegible]續き[illegible]仕舞び殆早や食入殘り品もなく閑散相場は軟弱一寸見當立たざる摸樣

●大邱米況（二十六日）

▲正米（十錢高） 歲末出廻り多かるさるも市場實物は弗々作ら現はれるが各地正米の小釣りを移して買氣稍々引立ち模樣に十錢方上騰氣配を呈したるが荷主賣惜しめて株は十八圓八十錢に精米筋に引取られたり

▲大豆（小强し） 賣物兎角途切ろ氣先他產地も氣配左程惡しからざれば市況何さなく引締れるが本日賣物三百八十叭は盛々商內に結局十一圓五十九錢さ移出點需筋に手合せり

釜山穀物（二十六日）

▲正米（保合） 出廻品相當あるが市場賣り物さしては餘り潤澤ならず本邦大阪定期昨後場は又々賣物れとなり止先は九十五錢さの報あり當市場の必需買お主たちたる事なるも最早年末も接近し事なれば一圓掛さ放買氣なく補充口よりの必需買のみに過ぎ氣配は小口小甘く然して相場は保合の中にあり

生魚市場

近來入荷少なき裡にも二十七日は稍多き方なるも格別目立しものはなく相場は各種總て高値にて殊に鮪は百目一圓といふ空前の高値にて鯛も例年に比し稍薄の爲め昨年より五割高に賞り三貫五百目位の物にて一尾九圓見當なり

▲たい四五▲ちぬ三〇▲さわら四二▲ひらめ三五▲ぶり三五▲めじろ三五▲ひらめ二五▲かれ二七七▲あなご三〇▲さば一六▲いせび六〇▲もひひ一〇〇▲しび五〇▲さより二〇▲たこ二五▲甲いか二五▲ぼら二四▲こち二二▲あわび五五▲かき二〇

下關相場

●朝鮮米も不況 其後玄米三百五十五叺の輸入ありしが當日は先約定物にして賣り物としての出廻り皆無なるも何分內地米の益々不勢にある折柄とて自然買氣の進まざる爲め兎角賣れ行き鈍くして人氣不勢を極め之れが弗々の出來値は左の通りなり

●大豆は依然强硬 元山物六百三十五叺汗浦產百叭慶山物三百九十叭大邱產三百八十四叭砂里院產三百七十六叭清洞產三百八十六叺等の輸入ありしがやはり其大部分は先約定物にして賣り物さしての出廻り多からぬと產地も安からぬに潤れ各手持筋の氣張り居る爲め相場は前報後備中白小豆三十俵の到著に過ぎずして自然賣り急ぎ物あらずと雖も何分當用口への賣れ行きに過ぎずして市況引立たず

▲朝鮮一等白米 廿四圓二十錢

仁川期米

新甫（二月限）	[illegible]

●新甫發會豫想

昨二十六日納會したる仁川米豆取引所は其夜新開內鮮人有志忘年會を兼て開催し關係銀行仲買委員株主新聞經濟記者等出席十五名定牛に

●十二月の受渡高

當株式取引所の十二月限の受渡高は株數七萬九千七百二十枚代金千二百三十六萬六千百七十圓にして一株平均は百五十五圓十二錢なるが之を前月に比較すれば株數に於て四萬千八百枚代金に於て七百二萬三千二百九十圓の孰れも減少なりと

●郵船株 新株落ちとなりて採算するから下に置かるさいふ安直にあるのは如何に見ても割の安い値頃であると覺念で保險的に買繫ぎするにはの株を買ふ人が相當にあると聞くも其の株の株は經々にザキの如きは經々正株かスレの傾向の如き漸く[illegible]二十錢以外にもなきの事はないけれども一昨日の如きは五月開く二十錢さいふ近頃稀なる安日歩であつたものである斯くして次第に浮動せる株が吸集せらるゝ時に於いて郵船株の眞價を發揮するのであるまいかと想はれるから同株の安直は矢張買ふべき策とすべきであらうか

●北濱たより

▲受米は敢行せん揚言 十二月限に於て三萬餘石の受米に於て敢行一限に向つて大敢行との先高を理想し已報せし如く十しつゝある場合受米を賣る營なるから例令受米が賣行たりとも强ち今之を賣らんとすれば大損となる今日受米は平均值段十九圓九十錢にて之に新米格三十錢を加算すれば二十圓二十錢に當る現下の

▲時價は餘程の高值で材料さなる譯ならず寧ろ正米で持ち退きたる事になる筋ては今げ賣行說は事實と思はれず殊に大阪分は今尙受渡し最中である

●大阪及仁川の新甫二月限の豫想入札を行ふたが其結果大阪の新甫二月限は最高二十三圓三十五錢、最低二十二圓八十六錢仁川第一節の公定值段は最高十九圓九十五錢最低十九圓二十錢

▲受渡賣行無根 賣を送るであつた

●大阪一節仁川一節公定相場の豫想 は記名にて入札した新甫發會當日開封し的中者には

▲全然無根 大阪每日新聞所載の三井物產が受米を賣取つた云々は大阪電報社に就き聞くに受渡買入說は全然無根なり

仁川米豆取引所仲買人

主任 西川平治郎

㊂仲買店

電話一五八番 長一五九番

自宅 電話 七二〇番

天氣

大 晴れ一時曇

（廿六日午後六時より廿七日午後六時迄）

十二月二十八日 [illegible]

[illegible]

◎開原附近の賊　去る十六日〔…〕逃走せり次に十七日午後四時頃開原附屬地の東八支里の東方五支里を距れる張相屯附近に〔…〕

〔…〕二十日午後二時頃達城郡論〔…〕に於て通行の商工面芦谷里李敬春が大邱明治町一丁目〔…〕に連れ出し本町二丁目の支那〔…〕より〔…〕し大事に至らんとする所〔…〕したり

李王家規範漸く完成す
◇二百三十一條の長編◇　岡野法學博士談

帝室制度審議會では李王家御一門に適用すべき『王公家規範』を立案中であつたが、愈々此程完成し

◇上奏の手續　に及んだとの事である、主として起草の任に當つた行政裁判所長官にして同委員なる法學博士岡野敬次郎氏は語る『王家とは朝鮮王家の正系なる李王家を指し、公家とは義和宮と李堈公との二家を指したるもので、今迄は李王家の御一家は國法上如何なる位置にあり

◇如何に待遇をせらるべきか　判然して居なかつた、殊に併合當時明治天皇の詔書には『世家率循ノ道ニ至リテハ朕ハ當ニ其軌儀ヲ定メ』とあるので、今度愈々軌儀を定められる譯である殊に李王世子殿下と梨本宮方女王と御婚儀の噂さへある今日尚更確固たる規定が必要になつた譯である從つて昨年十一月帝室制度審議會が設定されると同時に第一着の事業として『王公家規範』の正案を著手した譯である、内容は李王家の御相續（要家と云ふ字を用ゐたが）を初め王家と公家との關係や色々な儀式制度に關する規定で大體の方針は略皇族に準ずるといふ覺召である、二百三十一條の多きに亙つて居る起草する前に審議會の總會を開いて先決問題を決定し本年五月自分及び同委員の二名が京城に出張して立案の方針が

◇〔…〕　を確めた、其後追々稿を起し夏休み迄で草稿は出來上つたが九月から再び愼重に稿を改めて、此程漸く完成し上奏の手續を取つたが内閣へ一度下げ渡しになり次で樞密院の諮詢を經て御裁可となる筈である。さて發表の形式は官報へ掲載する丈には餘りに手輕に過ぎるので、多分特別の使者を立て、李王家に呈する事となるだらうと思はれる、何しろ大部のもので而も關係が廣いものだから立案は、可なり難かしいものであつた（東京）

◎大繁昌の四鄭鐵道
虞局長の日く　一日の收入七百圓

奉天停車場に於ける四鄭鐵道局長虞氏の談に日く『滿鐵本線四平街驛より東蒙古の鄭家屯に至る四鄭線五十四哩は東蒙古開發の爲めに重大なる使命を有すると言ふまでもなければ更らに北方洮南府に延長してはじめて同地方開發の意義を爲すに至るべし、目下の處にては線路の延長餘りに短かく到底充分の成績を擧ぐる能はざるを遺憾とす去りながら從來四平街より陸路徒歩または馬背にて往來せし鄭家屯の地に僅に三四時間にして到著するに至りたるを同地方民の爲に何よりの幸福と言ふべく名物の馬賊も跳梁するに由なかるべし、目下四鄭線一日の旅客賃金は平均約七百圓昨今の最冬が最も旅客の往來頻繁なる季節なり鄭家屯地方の物産は主として農產物、牛皮、毛皮等なれども農產物は今年遼河の大氾濫と蒙匪の猖獗との爲め非常に其の產額を減少せり、また三江口の停車場は例年夏期の洪水の爲め目下の所に位置せるものにて將來の市街は停車場附近に移轉すべしと思はる』（奉天）

◎棉價益々昂騰
二十五圓九十三錢の高値

本年九月頃一時鈍狀を呈したる當地實棉工場は十月に入りてより漸次昂騰の氣配を示し即ち十月上旬に於て二十一圓七十四錢、中旬に於て二十三圓六十四錢、下旬にて一躍二十四圓六十錢五厘となり十一月に入りてより稍下落して上旬に二十四圓四十二錢を示したるが又々漸次高値を示し中旬にて二十四圓四十八錢、下旬にて二十四圓九十錢二厘、而して十二月に入りては上旬に於て二十五圓八十一錢一厘に暴騰し現今に於ては二十五圓九十三錢一厘の高値を示しつゝあるが今後尚昂騰の氣配あり一般鮮人等は先高を見越し容易に手放さゞる有様なり（大邱）

◎米豆檢查成績

慶尙北道穀物檢査所に於ける本月中旬の米豆檢査成績を聞くに玄米に於ては三萬二千六百六十四叺、大豆にては一萬千九百七十九叺にして本年十月よりの累計を示せば玄米十五萬五千五十八叺、大豆十八萬六千二百二十叺にして其の檢査移出數は前年に比し著しき減少を示せるが之れは一般穀物商人に於て先高を見越し容易に手放さゞると鐵道局に於ける荷物積載制限の爲めなるべしと（大邱）

◎優良桑樹栽培

過般朝鮮總督府に於て開催されたる朝鮮蠶業技術官會議席上に於ける打合の結果本道内在來桑樹〔…〕及び唐桑の二優良品種を水原勸業模範場より鮮內各道へ獻培せしむることに決したりと（大邱）

◎清會線と間島郵便

北鮮清津驛より間島に差出す郵便物は毎朝七時に發し局子街に擬りて三里の距路を遞り、龍井に著するは普通午後六時より七時迄の間にあるも雨季に際する河川の漲水若しくは冬季嚴寒に於ける風雪の故障等によりて交通を許さゞる場合は郵便物の延著往々にしてあり而して清會線鐵道開通後に於ける間島方面郵便物時間は普の如く同鐵道の開通は毫も間島郵便の遞送に何等の恩惠を與ふるなく依然として舊狀の如くにあるが如も行詰り十三里の行程を一日に遞送せしむるといふは實に無理なる要求にして毎々冬季郵便物の延著を見るは是非なしとする所斯くては鐵道の開通は間島郵便物の差立に對しては全然無意義たりとす、べく今清津午前發の列車便は零時四十分會寧着とあれば直ちに之れを差立てしめんか中間新興坪にて一泊せしめば其翌日正午迄には龍井に達し得らるべく所謂郵便速達の意義に合するを疑はず併し新興坪を中繼所とするに於ては相當の保管設備を要するならんも今や間島の時運は斯かる設備を閑却すべきにあらず會龍間の郵便遞送に革新を期せしめざるべからざるなり

◎撫順炭の現況

目下撫順驛より輸送しつゝある石炭は毎日平均六十噸にして大豆輸送は一日平均六千噸大豆は近來附近部落より盛に運搬しつゝあり一驛構內に停滯し居れるが廿三日現在高は百四十車卽ち四千二百噸に上れり（撫順）

◎江口漁業不振

寒潮襲來早かりしため

慶尚北道内江口港以北沿岸の漁業不振の狀況は曩に報道したる處なるが今亦聞く處を報せんに同港沿岸は今秋來近年稀なる不漁にして倘今後も嚴寒の爲め絶望の狀態にあり口港に於ける昨年の漁獲高三十五萬圓に對して本年は僅かに五萬圓を算するに過ぎず爲漁其他の漁港亦之れに準じ不振なる爲漁民は一般に窮況を告げ或は他人より

▲賃借せる　漁船網其他の漁具を擔保として金錢を借入れ又は搶に之れを對渡して詐欺橫領等の罪科に觸るゝものあるのみならず内地人料理屋飲食店等も不景氣なるより漁期を見越して抱へ込みたる藝妓酌婦の轉借へに苦心し雜貨商其他の商人は警戒を加へ掛賣を拒み又鮮人料理屋飲食店も漸次廢業するもの多く漁港の經濟界は一般に不安の狀態に在り、內地人は不漁の原因を

▲寒潮の襲來　早かりし爲め漁族を驅逐したるに依るものなりしと云ひ朝鮮人は內地人出漁者の增加と打瀨網に依る漁業方法の擴張とに依るものなりと稱し何れも本年の不漁を喞ち居れり、然れども鰤漁と鮮人の鰯漁とは近年稀なる豐漁にして鰤は昨年の漁獲高約二千四百圓に對し本年は二千七百圓の水揚げありたり（大邱）

◎組合管理者任免

慶北道德學校組合管理者清水源三氏は其の任期滿了と共に本月廿八日再選され慶山學校組合管理者高木源太氏は此の程辭任したるに依り堀家島太氏代つて就任せり（大邱）

◎岸道技師歸任　豫て朝鮮總督府技術官會議に出席の爲め京城に出張中の慶北道技師岸秀次氏は廿五日午前一時歸任せり（大邱）

◎慈仁學校移轉　大邱慈仁公立普通學校は昨報の如く去る廿五日東雲町元公立高等普通學校跡に移轉したり（大邱）

◎千七百圓拐帶

大邱府千代田町四十番地李一達（十七）なるものは本月廿日其の叔父錦町李應可多方に於て家人の隙を窺ひ金庫在中の現金千七百圓を窃取し翌八日何れへか高飛びせむと大邱驛に差掛りたる處を豫て見張中の警官に捕縛され此の程一件書類と共に檢事局に送られたるが一達は不良少年として豫て其筋より注意中の者なりしと

◎黑川詐欺事件公判日

大邱錦町黑川鬪治に對する詐欺事件は第一審に於ける懲役一年にして二年間刑の執行猶豫の判決に對し被告黑川は不服を稱へ控訴したることは既報の通りなるが第二審は明年一月廿三日午前十時より覆審法院刑事法廷に於て辻義判長、村上檢事の係にて公判開廷の筈也

撫順雜信

▲明春の諸工事　撫順市內側の合資にて成立したる驛前撫順鐵工所は明春早々落成の見込みにて目下假工場に於て從業し既に鑄物を炭坑に納品しつゝあり

▲大阪亞鉛鑛業　株式會社は老虎台坑前に約二萬坪の敷地を借受け目下基礎工事を急ぎつゝありて機械の据付設計等略ぼ完了し明春早々建築に著手する由

▲自動車道路新設　從來千金寨以東の交通機關としては電車に據るの外便無かりしが此度炭坑救護班の活動を敏活ならしむる目的を以て龍鳳坑に至る自動車道路を新設するの計畫をたて明春早く著手し十月迄に落成の見込みなれば一般市中の交通機關として多大に便宜を感ずるに至るべし

▲大山坑現狀　本春坑內瓦斯大爆發以來一時作業中止の止むなきに至りしが四月中旬より復舊作業に著手し各從事員の努力の結果近來著しく出炭增加し毎日三百五十噸以上の出炭を見に至れり

白山黒水

▲奉天内で一箇年間に消費される石炭の量は南滿製糖、英米煙草會社等を除いてザット十八萬噸▲此の代價が一噸十圓として百八十萬圓であらう▲鮮銀の滿洲に於ける今年の發展は素晴らしいものだつたが御蔭で鮮銀の人達は今年の年の瀬を越し兼ねることぼす▲銀行が年が越せぬとあつては聊か勝手が異ふやうだがなるほど遼陽と言ひ安東、鐵嶺、旅順と云ひ十二月の大晦日に正金から引繼ぎをうけるとすれば無理もない話▲年の暮れ一刻値ひセンギンは大に苦しい▲序に奉天の年末の景氣を聞くと鐵道附屬地側は建築事業界の發展は何處の店を何商賣もホク〳〵もの▲城內側は銀が騰いので支那商人の日本品仕入れもなか〳〵盛ん▲己の年の暮さへノラリクラリせずに此の通りだから午の來年はまた〳〵跳ねかへつて大にムマいことがありさうだ▲物騷な哈爾賓も其後の模樣では一向穩り榮にもなさゝうだ▲本國に於てさへ戰爭嫌ひの露西亞兵が何んの哈爾賓くんだりまで來て一戰に及ぶものか〳〵……とは消息通の穿つた言葉▲これでは東滿鐵道長官もホルワット一息つけさうだ（奉天）

◆積極的健康增進法
＝秘訣は規律的習慣＝

◆昔の養生法　と云ふと先づ第一に荒い風に當つてはならぬ消化の悪い物を食してはならぬ餘り過激な運動をしてはならぬ抔凡て勿れ主義の頗る消極的なものであつた然るに近頃は自ら周圍に適應し外部の刺戟に抵抗し得るやう大に積極的に進んで來た卽ち出來るだけ運動もし喰へるだけ悪い物も食し寒い風にも抵抗し得るやう何事も積極的の衞生法を以て唯一の健康増進法とされて來た併し之を實際に應用する場合には到底同じ法式を以て萬人に强ひることは能きない

＝三日坊主が最も禁物＝

◆例ば小學校　の如き多勢の生徒の中には强い者もあれば又弱い體質の者もあつて、悉く同じ方法を用ひると折角の健康法も其人に依つては忽ち不健康法となる虞れがある、故に凡て本人の體質に適應した健康增進法を行ふことが必要で、決して極端な眞似をやつてはならぬ、一體われ〳〵人間が毎日食物を攝るに食物全體が養分となり糞便にもならぬ樣な物が最善の食物と思つてゐるが之は大なる誤解で無論消化し易い滋養分は必要であるが又或程度迄は不消化分も必要である卽ち胃は胃腸は腸凡ての臟器が悉く適度に活動して初めて健康體を保つことが出來るので

◆平生粗悪な　食物で常に腸胃を慣して置くと個に喰飢れぬ物を食しても何等の障害を及さぬ次に私は健康增進法として三十年來冷水浴をやつてゐる毎朝床を離れると直ぐ湯殿へ飛込んで素裸となり水道の水を頭から浴びる之は急にやると風邪を引くが習慣になると一日止めても氣持が惡い夫に私は嚴寒でも決して和服の下にシャツやズボン下を用ひず又足袋も穿かぬ。これは

◆冷水浴の爲　で皮膚が非常に丈夫になつてゐるから常に外氣の刺戟に堪へ得るやう皮膚も相當に鍛へ慣して置くことが必要である又飮食なども大に害があるが更に惡いのは酒である飲酒家の持つてゐる病氣は心臟病、腎臟病、食道癌其他で一體に飮酒の害は外氣に對する體の抵抗力を減じ自然と臟氣を損ふに至るのである尙ほ戶外の運動は極めて良く常に外氣に觸れて新しい空氣を吸ふのは體の爲めに非常に良い凡て養生法は辛抱や我慢で續くものでなく規律的の習慣が一番大切で三日坊主は最も禁物である

演藝案內

本町五丁目　稻荷座　大阪初下り男女合同大一座芝居　一月元旦より〔…〕

有樂館　平川演藝部直營活動寫眞常設館　〔…〕

電話二三六六　黃金館　〔…〕

京城壽町　電話五七八番　壽座　當る一月元旦の舊芝居〔…〕

明治町二丁目　電話二六〇番　浪花館　〔…〕

本町　電話八七三　大正館　〔…〕

▲廣告▼

商業登記公告

株式會社漢湖農工銀行鐵原支店登記左記ノ設定ニ依リ支店所在地ヲ左ノ如ク變更シタリ
江原道春川郡春川面大板里貳百九番地
忠清北道忠州郡忠州面忠州邑百貳拾六番地
右大正六年十二月二十六日登記
京城地方法院鐵原支廳

商業登記公告

〔…〕
右大正六年拾貳月貳拾五日登記
京城地方法院

商業登記公告

〔…〕
右大正六年拾貳月貳拾五日登記
京城地方法院開城支廳

商業登記

商號ノ廢止　大正六年拾二月拾九日
開城物產商會ヲ廢止ス
右大正六年拾貳月貳拾四日登記
合資會社開城社社員張鼎漢ハ大正六年拾貳月拾四日其持分全部ヲ社員朴鳳鎭ニ讓渡シ社員孔聖學ハ同日持分全部ヲ社員金奎德ニ讓渡シテ各退社シ〔…〕同日其出資額ヲ左ノ如ク變更シタリ
一、金壹千八百圓　朴鳳鎭
一、金參百圓　孔聖學
〔…〕

陸軍拂下
並に諸官衙拂下品
襦袢、袴下、靴下、手袋、被服一切
京城府漢江通三ノ二　電話長三一六番
佐藤古着店

眼科專門
入院隨意
京城明治町東拓横（電話二〇四四番）
江頭眼科醫院
日曜祭日午後二時迄
江頭富雄

例年の通り
忘年會新年宴會
其他御料理御好に應じ安價に可申受候
鍋類其他の一品御料理の御客樣の御便利は隣庵の特徴に候
御料理仕出し
京城旭町一丁目
權平庵
電話二〇四六番

內外科　小兒科　花柳病
京城本町二丁目（壽館前）　電話二一六番
高井醫院
診察自午前九時至午後九時　日曜祭日正午迄
院長　正六位勳四等功五級　高井貞治
副院長　千葉醫學士　松崎正彥

▲寒さと『トンビ』▼
一、特長トンビ　金參拾九圓也
一、甲　同　金參拾六圓也
一、乙　同　金參拾圓也
一、女コート（頭巾付一割引）　特價金拾九圓也
一、行燈袴　特價金九圓也
◎純毛にして色合は新流行鼠色
◎世間有りふれたる內地製品にあらず
◎純英國製にして『シワノヨラヌ』事保證付
但しコート袴共五拾枚限り右特價發賣仕候
京城太平通一丁目　振替京城三〇〇番
京城日報社代理部

男女會員募集
美人は一生の德
■高致成功の最大要素■何人も直ちに美人となる■目下入會の最大好機■規則無代進呈■送料二錢要す
東京牛込矢來町三十　美容研究會　振替東京三九五〇二

廉價販賣
古木本場
梅盆栽
福壽草
黃梅各種　雪割草種　松竹盆栽　寒咲花木
京城大和町警務總監部四ツ角
骨董園藝　大舘微笑園
電話一三五五番

優等清酒

廣島縣西條町
釀造元　木村靜彥
京城府鍾路（中央）
發賣元　河野酒店
電話三一〇八番

御好意を深謝す
大正六年十二月二十七日
石塚英藏
同　家族一同

左甚五郎

第百二十六席　桃川如燕口演　浪上義三郎速記

長谷川等伯は七福神の大幅を見て感に入つて居りましたが　等『此の中でも壽老人の圖の最も能く出來て居る、此圖を一ッ取つて置きたいものだ』と手を拍いたが誰も來ない、何か無いかと立上つて床の間の傍へ來ると、違棚に金高蒔繪のした上等な硯箱がありました　等『是だ〳〵』と其れを卸して水を差し墨を擂つて筆を執りましたが生憎紙が無い、ハテ何に描いたものかと四邊を睨して居る内に、目に留つたのが京間三間に無地の銀の唐紙が四枚箝つて居る、それを見て等伯莞爾笑つて筆をドップリ卸し、唐紙の傍へ寄つて忽ちの内に一ぱいに壽老人の圖を描いてしまつて筆を投出し　等『あゝ快い心地だ、イヤ自分ながら氣に叶つた』と獨り喜んで等伯と落款を入れ硯箱を片付ける處へ、バタ〳〵と二三人の足音　女『先刻のお客樣は未だお目覺にならないかしら、然し今度こそはお起し申さなければならない』といふ聲を聞いて、イヤ俺を起しに來たと見ゐる、見付けられては大變だと唐紙を開けて中から飛び出す　女『オヤお客樣お目覺でございますか　等『イヤ何うも酒に醉潰れてとんだ迷惑をかけて濟なかつた　女『先刻お起し申さうと思ひましたが、餘り能くお睡つてお在なさいましたから其儘にいたして置きました　等『もう餘程遲いかね　女『ハイ四ッでございます　等『それは何も御迷惑であつた』とジコ〳〵に醉月を飛出してしまつた、一人の女中が座敷へ入つて一應檢めやうとフト見ると未だ一人殘つて居ります　女『オヤ〳〵お松さん未だ一人お客樣が殘つて居ますよ　松『そんなことは無いでせう……オヤツ然うですね御老人がニコ〳〵笑つて　竹『お前さん達は何を云つて居るの、お客樣はお人數だけすつかりお歸りなすつたぢやアありませんか　松『だつてお竹さん御覧なさいな彼處にお一人……』云はれてお竹といふ女中頭が燭臺の光りに照して見ると銀の襖に活る樣に描いてある壽老人、流石に女中頭でもする位の女、年もとつて居りますから沈着いて居る、直に畫だと云ふことを判斷いたしましたが、それにしても何うして今まで描いてなかつた銀襖に此の畫が描いてあるのかと思ひ　竹『まアお前さん達能く御覧よ是は畫じやアないか　松『成程然うですね、能く見ると畫だければも宛然活て居る人のやうですね　梅『本統に能く描いてありますね　竹『けれども何だよ、巧い描いを云つて居る所では無いよ、今まで描いてなかつた此の唐紙へ何時の間にこんな畫が描けてしまつたのだらう　松『殊によつたら今のお客樣が描いたのじやアありませんかね　竹『妾も然う思ふんだよ、惡いことをするじやアないか、妾達が旦那樣に小言を云はれなければならない、兎に角旦那樣に爲渡然う云つてお在でと』と云つて居ると庭へ拾度主が、餘り二階で女中共が騒いで居るから何だと思つて上つて來て樣子を聞くと右の始末　主『ドレ〳〵見せろ』とそれから燭臺を近寄せて能く見て居たが、此の醉月の主は千利久の弟子で茶道の心得もあり、却々風雅な人物、暫く見惚れて居りましたが　主『イヤ此の位の樂書なら[illegible]して置つた方がお錢い』と別段女中共に小言も云はずに其の儘は寢てしまつた、翌日醉月へ千利久が遊びに來て、主人の居間で種々好む道の話しなぞをして居る内に、主人が　主『時に宗匠、昨夜手前共に面白いことがありました　利『面白いことゝ云ふのは耳よりだが何ですな』

十二月廿九日九星　舊十一月十五日乙巳　本命六白乾取先勝

▲六白●不遠慮の事有日新事見合南方は吉　▲七赤●親類の日轉居入學求職名引普請婚禮移轉南與萬吉　▲八白●大儲有日轉居開業入殊名弘株士紛糾先を見越たる商事發行吉　▲九紫●證の日新事手控商事は吉又前申ん防があるべし　▲一白●穏健の日轉居開業等吉殊に女子の婚約ん結ふに大吉の日也　▲二黒●手廻よき日轉居旅行入殊名弘求職建前婚禮移轉吉　▲三碧●女難失物用心の日新事手控事は吉治生に注意せらろべし　▲四緑●剤に介はぬ事有日新事手控商事は吉紹介諸印等せがよし　▲五黃●活躍の日轉居開業出殊名引金件線組定剛取引等吉

軍隊毛布

必ず買ひ遲れて後悔する勿れ　先頃來本社がロシア軍隊防寒用毛布の破格物在庫品買に僅か八百組となり決算都合上是非年內に賣放し茶鼠大判二枚續一組(無疵)原價値なる一圓九十五錢で御注文に應すれば此際至急(ハガキ)で申込れ受付順に引換郵便で發送す　普通の店で五圓以下で買ね實用品也

東京神田　東京織物仲繼店　振替東京七三四六番

周易　明治町三丁目　介石堂　岡村介石

牛乳　御用　京城東四軒町　岡野牧場　電話一〇六九番

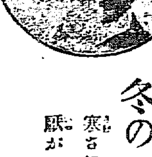
質　本多質店　京城太平通二丁目　嚴密精々高價御預

冬のお子さん達

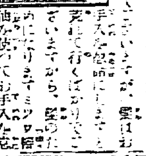
寒さに怖けずとも皮膚は荒れる　厭がるものを無理に洗ふは悪習

(ミツワ文庫六、一二三)

澤村宗十郎談



子供は風の子とか云ひまして寒さには中々怖けないものですが、でも怖けずに寒い處も構はずに駈けずり廻つたり冷たい風にも平氣で當つたりしますものですから風邪をひき込みましたり一寸した事ですから直に荒れたりしますものですから、一寸した事が荒の御家庭でもさうならない樣に豫め御注意が大切でございます。御注意と申しました處で遊びたい盛りのお子さん達を戸外へ出ない樣に縛つて置く譯にも參りませんから、少し寒いやうでしたら着物を一枚餘計に着せる樣にさせますと同時に皮膚を健康に保たせて置くと云ふことが何よりでございます、皮膚を健康に保たせて置きますには皮膚を敵うて皮膚の表に開いて居ります皮脂腺や毛孔を塞いで皮膚の作用を鈍くします汚垢を除きまして、皮膚の作用を健やかにさせますのが何よりでございますが、それには皮膚の營養を助けるミツワ石鹸を使つて入浴をする樣にしますに越したことはございません、お子さん達はよく入浴を嫌ひますもので特にお幼さい方なぞになりますと顔を洗ふことを隨分嫌がりますものですが、それを無理に掴まへてゴシゴシ洗つてやりますのが今まで皆さんのおやりになります方法の樣でございますが、これは入浴なり顔を洗つてやります方法なりを極愉快に心持よくやれる樣にしてやりますと、決して厭がることはなく進んでやりますことにならうと存じます。先づ家庭の浴槽でしたら程よく沸きました湯の中へミツワ花の雫を豬口に一抔程滴します、錢湯なれば桶にとりました上り湯の中へ此のミツワ花の雫を四五滴たらします、さうしますと温雅ないゝ芳香が身體を包みますからいゝ心持で温たかく温たまりまして、濡れて汚垢が浮き加減になりますから之へミツワ石鹸を掌で溶いた雫の樣に白い泡沫を皮膚に塗りまして靜かに撫でますと、此の石鹸の作用で汚垢は此の泡沫に吸はれる樣になつて泥ります、之をお湯で洗ひ流しますと氣持よく、するりと落ちまして皮膚は少しも刺激される樣なことはなく毛孔に潜んで居ります汚垢まで吸ひ出される樣になつて、すつかり落ちてしまひますから皮膚は清潔になつて機能は健やかになり皮膚は生々といゝ色艶になります。此のミツワ石鹸を使ひますと、厭がるものを無理に掴まへてお子さん達の柔かい皮膚をゴシ〳〵擦つてやる樣なこともせずとも穏やかに汚垢は落ちて行きますから、湯上りに此の清潔になりました顔や、手足の皮膚へミツワ雪の雫を擦り込む樣にしまして、暫くしてお湯で緊く搾つた手拭で皮膚に吸はれないねとねとした餘分を拭き除つてしまひますと、此のミツワ雪の雫は皮膚に潤澤を持たせ皮膚の組織をひきしめて肌理を細かにします藥ですから皮膚はつやつやと肌理がよくなつて、此からの寒さにも肌の荒を知らずに過せる樣になります。



▲澤村宗之助曰く　[illegible]

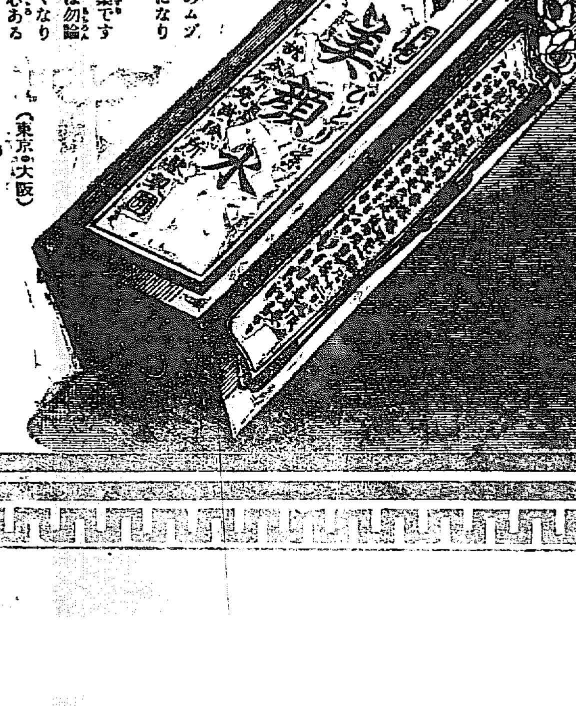
外務社員募集　各地に於て爲し得る業務多大　希望者は最近の履歴書別封入本社外務部長宛申込まれたし　特別優遇法有　東京市丸の內有樂町一丁目四番地　大日本勸業株式會社

新荷著　スイス製　懷中時計

アンクル側　ニッケル側十八形　[illegible]

其他蓄音器、時計、自轉車、洋酒各國貨直輸入商　イングレッソー商會　京城本町二丁目　電話九七二番

販賣入瓦斯機關　大阪發動機會社製　十八馬力　十四馬力　十馬力　其他あり　電氣モートル卅馬力以下在庫品豐富　佐賀市唐人町　丸三商會



にきびとり　美顔水　心ある家庭には是非常備せられたき皮膚衛生藥

(一)ニキビ、吹出物――婦人は固より男子にても、ニキビや吹出物の多いのは見よいものでありませんが、此藥は頑固なニキビや吹出物に對しても奇効を奏しますので信用を博して居ります。

(二)蚤、蚊、南京虫――其他毒のある虫に螫された時、此藥を附けますと、不愉快な痛さ痒さを覺えず、螫された跡が腫物等になる事がありません。蚤や蚊で夜お子方のムヅかる時等此上ない重寶な事がおわかりになります。

(三)皮膚を美しくす――斯ういふ藥ですから、常用すればニキビ吹出物を防ぐは勿論皮膚は次第に拭はれ磨かれた樣に美しくなり容貌の美を増す力が強いので、此藥は心ある家庭には常備せられて居ります。

(定價特大瓶壹圓・大瓶五拾錢・中瓶廿五錢・小瓶拾貳錢)

(東京・大阪)　發賣元　桃谷順天館

淋病新藥　ツヨール

▲故下山藥學博士、慶松藥學博士說明▲田中藥學博士實驗▲朝比奈藥學博士、岩川藥學博士檢定　加藤照麿醫學博士、山田弼國醫學博士等の實驗の結果理想的內服治淋劑と確定せる。

◎到處藥舖にて販賣　製造元　東京市日本橋區川瀨石町　ツヨール商會　發賣元　大阪道修町三丁目　田邊五兵衞　振替大阪八六七番

▲本品は殺菌力を有し且胃腸に障害を寄せず▲膀胱カタル、尿道炎、前立腺炎、其他一般慢性、急性淋病に偉効を奏す　廿粒入 六拾錢　五十粒入 [illegible]　百粒入 [illegible]　▲說明書無料進呈す

蛋白・澱粉・脂肪　新消化劑　プロテアーゼ

東京帝國大學醫科大學三宅博士發見

是迄の消化劑は多く澱粉質にのみ有効にして蛋白質に對しては未だ理想的のものなかりしが今回帝國大學の三宅醫學博士は蛋白質に對し最も強度の消化力を有するプロテアーゼを發見せり本品は一種のエンチームにして蛋白質の消化力現代に於て第一位なるが上に澱粉質に對しても其消化力諸種のヂアスターゼに優り尚脂肪分解作用をも兼有す斯く蛋白、澱粉、脂肪の三種に對し完全なる消化力を具備する大發明品實に本品を以て第一となす

前記の事實は內務省東京衛生試驗所の報告に見るも明なり胃腸障害の爲に常にヂアスターゼ其他の消化劑を服用せられつゝある人は速に本劑を試み其偉効を知れ

粉末と錠劑の二種あり

定價		
粉末	二五瓦	六十五錢
	一〇〇瓦	一圓四十錢
錠劑	百錠	三十錢
	二百錠	九十錢

東京京橋區南傳馬町三丁目　星製藥株式會社　電話京橋二七八五　振替東京二〇五二二

白粉中の白粉、塗けて白さが異ふ　ホーカー白粉　普通のおしろいとは肌の生地から美しい白さに塗く外にない美容劑本位の白粉一度お試し下さい　定價一瓶廿五錢　內地無料　本舖東京和泉橋　振替東京一五六[illegible]

汽車

京釜線(南行)	同(北行)	湖南線(南行)	同(北行)	京義線(北行)	同(南行)	京仁線(仁川行)	京元線(北行)	同(南行)
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

京城日報　二十八日朝刊（朝夕刊併せて八頁）
第五版

…明題の諸氏を招致し[illegible]に議員會合左記諸案が結局委員を設けて[illegible]市場の確保と新市場の開拓を論ずる事(四)歐洲大戰の經驗により將來如何なる産業を必要とすべきや之を創設し若しくは維持[illegible]遂を企圖する事(八)戰時及び戰後の金融問題(九)商品陳列館を擴張する事(十)國産品を愛用する氣風を養成する事(十一)産業資金の融通並充足を圖る事

[illegible]より稍大活況を呈し七八月に至りて最高潮に達し遠洋四十二圓五十錢近海三十八圓を唱へたり然るに九月一日より戰時船舶管理令の施行せられたる爲め[illegible]出の禁止及び暴利取締令の[illegible]岸積荷の減少を見たる事等其因を爲すべし然るに其後時日の經過と共に戰時船舶管理令の實施に多少の手心を加へ緩和せられたると[illegible]

△一般狀況指示すべき[illegible]ロメーターにして噸當り[illegible]日同より最高八十圓を見せたる[illegible]如く激變あり[illegible]

△此上輸出入品に峻烈の[illegible]禁止同樣の態度を加へさらに於て[illegible]不明なれど日米間を始め東洋南洋方面の船腹は益々不足を告げつゝありて之が補充の容易ならざるに想到せば相當の活躍は之を期待すべきが如し

支那漫遊　蘇峰生

靑島に著す

十二月一日、早朝より揮毫し、筆を投じて、坊子より乘車す。昨雨霽れ來るも、天氣變調を呈す。昨風疾く、天陰り、時に小雨あり。車中寂寥無聊、唯だ南京豆を嚙り、且つ坐睡に耽るのみ。

鐵道沿線、張店の如き、濰縣の如き、坊子の如き、何れも制錢商賈の爲めに、不時に日本人增加したり。制錢は我が寛永通寶の如き穴錢を云ふ。支那にては金銀を貯蓄すれば、他より掠奪せらるゝ危險あり。さりとて預け置く可き銀行もなし。此を以て土地に放資せざれば、穴錢を貯へざるを得ず。穴錢なれば、如何に強盜入來したりとて、奪ひ去る分量は、高の知れたるもの也。今日に於ても、穴錢を、幾種となく貯藏する者少からず。中には百萬圓以上の制錢を、貯へ居る者ありと聞く。されば銅價の騰貴に際して、之を買收し、之を鑄潰して、地金となし、日本に輸送するは、猶ほ生洲より魚を捕へ來るが如く、極めて輕便なる採銅法にして、其の繁昌や、偶然にあらず。されど所謂制錢買なるものは、其の日本人たると、支那人たるとを問はず、極めて如何はしき者多く。或は強請、或は騙詐、或は強盜、あらゆる惡辣手段を弄し、此が爲めに日本人の信用を、支那人間に失墜し、併せて一般の日本人に迄、其の惡影響を及ぼしたるの一事は、掩ふ能はざるの事實なりと云ふ。果して然らば、今や制錢商賈不振の爲めに、各驛に於ける日本人の、減退しつゝあるは、必らずしも深く嘆ずる能はざるが如し。

山東沿線は、春秋時代齊國にして、廢城、古墳隨處にあり。若し考古的探査を做さん乎、必らず得る所多かる可し。然もそれよりも必要なるは、地質調査ならむ。山東は太公望以來、山を鑛り、海を煮、鹽鐵の利を以て、其富禹域に冠たり。徒らに地味の饒确と、人口の夥多のみを以て、山東の名物となすは、恐らくは皮相の見ならむ。

踏盡曾屏長短亭。發延羅經。不知身在[illegible]東[illegible]林外哥。

膠州に於て、其の灣光を望みたる時は、吾心躍れり。十月十三日、秦皇島に於て、[illegible]海を見ざる、已に二個月に近からん。今や再び黃海に接觸す。愉快如何ぞや。

バラックあり、是れ山東苦力の、西歐の戰地に輸送するもの也。[illegible]等が坊子の停車場に[illegible]の支那人、胸に番號を附け、[illegible]したるを見たり。是れ何かの[illegible]光闢にやあらんと[illegible]西歐戰池行の苦力[illegible]が、山東苦力を[illegible]る迄は、まだしもの事也[illegible]して、今後猶ほ久しきに[illegible]恐らくは[illegible]之を使用[illegible]

午後三時靑島驛、グランドホテルに入り、暫くて本郷司令官を訪ふ。官舍は實に山光海色、風景絕佳の位置を占む。司令官は予が[illegible]人也。此地にて相見るは、相互に意外とも云ふ可く、又た意中とも云ふ可し。[illegible]を敘し、[illegible]を語り、[illegible]去すれば、疾風颯々、自動車を吹き倒さんとするの勢あり。

カイゼルの功德

大正六年十二月四日午前七時　靑島に於て[illegible]

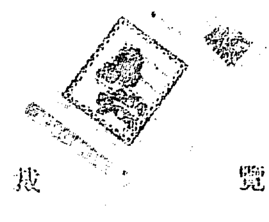
十二月三日、起きて窓外を眺むれば、滿目白雪、唯だ海色の蒼々たるのみ。早朝日出づるも、風尚ほ寒し。自動車にて戰跡見物に出掛れば、[illegible]車は飛び去らんとす。先づ[illegible]の砲臺を見、轉じて旭公園の櫻[illegible]大道を過ぎ、旭山に登り、イルチス砲臺を見る。膠州灣一帶山東の[illegible]の地、唯だ獨逸の借租以來、栽植[illegible]林に餘力を剩さず。乃ち櫻大道の如きも、特に日本より櫻苗を取り寄せたるもの、而して其他滿山滿谷、薄地の松、櫟、槐の類、亦た然りとす。試みに高に登りて見れば、借租地の內外は、樹木の有無を以て、宛も地圖に彩色したる如く、判然として分明也。亦た以て如何に獨逸人が、天然を征服し得たるかを知る可し。蓋し靑島は、獨逸人が日本人に與へたる、實物教育也。吾人は此の標本に就て、深く窮め、切に學ぶ所なかる可らず。

祭山塡海枉艱辛。鐵拳天子何功德。經營就附二他人一。

[illegible]添加したるもの也。氏は偶ま大江義塾解散後、東上するの際、京都に於て撮影したる寫眞を示す。其中の戶田、中川、丁の三氏は、已に故人たり。而して[illegible]少年たりし[illegible]も、今や半打の家族を擁し、一個の好靑年たり。人生流水の如し、一として論らざるものは、只だ吾人の志操と、交情とのみ。

此夜本郷司令官の晩餐に赴く。主人中將は晩餐後、予に向て民政施行の顛末を語る。頗る詳か也。若し支那人をして、親しく之を聞かしめば、必らず諒とする所あらん。

京日鮮滿便覽



便覽　體裁

◆京日鮮滿便覽は四六倍版百餘頁の寫眞に富みて美麗なる小冊子にて普通案內書等の如き比に非らず內容豐富華を去り實際を採りて

便利と實用とを兼ねたる有益なる新年の大附錄を提供す

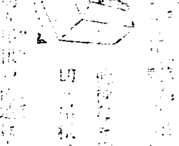
◆簡短明瞭材料細大漏さず寫眞版數十枚挿入旅行家は勿論實業家等には不可缺月極讀者に限り無代進呈購讀者は速に申込まれよ

大正七年一月元旦京城日報附錄

朝鮮古墳の變遷（二十五）　八木奘三郎

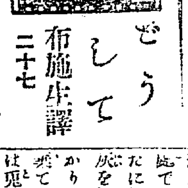
(乙)石槨の構造と家屋との關係

[illegible]



[illegible]栖の構造には日鮮支那共に之れ有り、但し朝鮮は此風高麗時代に入りて多く行はれたり。而して此屋切りも蛇腹式も俱に其本源あり、殊に棟切り屋根は支那の家屋に[illegible]せば同國は漢代より陵墓に[illegible]り來れることを知るに足れり。[illegible]

どうして　布施生譯（二十七）



[illegible]ぢつてあつたものであらう、ごつ[illegible]しい色紙で張つた壁の上には處々版畫が貼付けてあるが大方は雜誌の口繪を剝がした安つぽいもので、それでも流石に俗惡なものは一つもなく、面白い事には何れも男性的の力の籠つた畫ばかりで[illegible]と戰つてゐる勇士の味方[illegible]

[illegible]此部屋は嘗ては[illegible]部屋と云ふだけではなく昔は多少の趣[illegible]

[illegible]になる日もあらうと大切に衣嚢に藏めた。

中外新論　新年號

新旭天に登りて乾坤皆な新た也

口繪＝大和魂（高橋三色版）駿馬と伯樂…平福百穗筆

年頭の感＝一体の迷想。憂人　寺內元帥

勞以て國を興すべし。政物評　キーナー

友會と國民黨　主筆　小松綠

中外雜組

世事人事

刻下の緊急問題たる鐵材自給に關する具體案　牧田環

都市道路の改善急務

物價と騰貴通貨政策

日用品の自給策

支那と紛爭地理的

日米と共同提攜

政黨と政治徒黨政治

成金と熱成金罵倒錄

大每と大朝兩新聞の對壘

東京記者團の表裏

黑髮…泉鏡花

小仲間外れ…岡田八千代

（小說）2と3…田山花袋

銀鑛　ガレオーフ作

雜感　官吏生活は氣樂なもの　江木冷灰

支那人の右文主義…服部博士

國民思想の疾患…三井甲之

米文學の解剖…野口米次郎

良人操縱策

桑槿一家說

各國の禁煙運動

我國將來の三大要件　佐藤海軍中將

我教育界の革新

英國の救濟事業

大戰第五年

擴大號

雪嶺と蘇峰

下田歌子女史の印象

音樂の話　幸田延子

午の話

元祿風の兩面　笹川臨風

藝者松菊後の木戶公夫人

浮沈傳

文晁後藤新平

長壽の秘訣　酒と煙草

男女競爭の過去現在未來

本號定價金五十五錢　郵稅金三錢　中外新論社

新論世に出で、人間悉く新た也

雜誌半定價

所有土地臺帳

農科大學長農學博士　古在由直序文　農學士　足立丈次郎監修　農事試驗場技師　齋藤萬吉校閱　松本恒吉著作

第參版

土地所有者は[illegible]臺帳は多年の[illegible]

小作臺帳

第參版

地主は皆小作臺帳を備へ置くべし

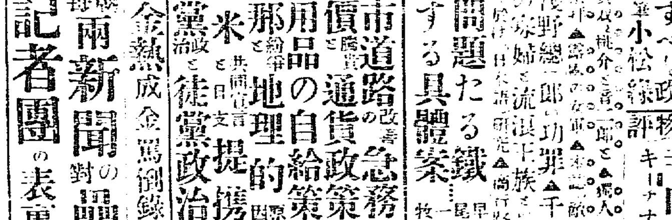
發行所　東京市麴町區平河町五丁目　振替口座東京二〇九一四番　洛陽堂

今般左記各地ニ於ケル横濱正金銀行ノ業務ヲ繼承シ大正七年壹月壹日安東縣ノ外新ニ旅順、遼陽及ヒ鐵嶺ニ出張所ヲ開設シ銀行一般ノ業務ヲ取扱致候此段廣告候也

旅順　遼陽　鐵嶺　安東縣

追テ同日以後前記各地及大連奉天ニ於ケル金庫事務ハ當行ニ於テ取扱致候

大正六年十二月　朝鮮銀行



新年の（ニッポノホン）（鷲印音譜）賣出し申候

名人レコード

一、長唄　吉原雀　芳村孝次郎　杵屋新右衛門

一、新內　[illegible]

一、清元　北州

一、義太夫　[illegible]

▼藝術座劇「生ける屍」

▼唱歌「さすらひの唄」

▼活動內坊コロツプの巷

▼小唄

▼鷲印兩面盤

定價金壹圓五拾錢の五拾錢引賣出し

（果して大好評、品切のなき內御注文を乞ふ）

朝鮮京城本町二丁目

株式會社日本蓄音器商會

京城永樂町二丁目（商品陳列館裏門通）

電話二六〇八番

酒井婦人病院

院長　酒井一郎

◎帝國議會開院式

天皇陛下には二十七日第四十回帝國議會開院式を擧げさせらる可く貴族院に行幸遊ばされたり 陛下には午前十時第一公式鹵簿に依り宮城御出門 徳川侍從次長 御陪乘 閑院宮載仁親王、東久邇宮稔彦王兩殿下を始め奉り波多野宮相、内山侍從武官長以下供奉、近衛騎兵二個中隊の儀仗警衛にて、鹵簿蕭々同四十五分同院表門に入らせらる是より先き大岡衆議院議長以下兩院書記官等門内に整列御著輦を奉迎し徳川貴族院議長は御車寄に奉迎し便殿に御誘導し奉り 陛下には此所にて東伏見宮依仁親王殿下外各殿下、外國使臣、寺内首相以下に拜謁仰付られ十一時伊藤式部次長の奏請に依り貴族院議場に臨御玉座に就かせ給ふ仰ぎまつれば 陛下には陸軍[illegible]に大勲位菊花章頸飾功一級金鵄勲章の大綬を帶ばせられ颯爽たる英姿畏く滿場貴衆兩院議員の最敬禮を受けさせ給ふ、軈て寺内首相は別府内閣書記官の捧持せる勅語書を奉受し鞠躬如として階段を登り捧呈すれば 陛下には玉音朗かに勅語を宣らせ給ひ 徳川貴族院議長は[illegible]長勅語書を拜受し 陛下には便殿に復御同十一時[illegible]より還幸遊ばされたり（東京特電）

勅語

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及ビ衆議院ノ各員ニ告ク

帝國ト締盟各國トノ交際ハ益々深厚ヲ加ヘ朕深ク之ヲ欣フ朕ハ歐洲戰況ノ益々重大ナルニ鑑ミカメテ聯合列强ト協調ヲ固ノシ同盟履信ノ實ヲ擧ケ以テ東洋和平ヲ保全シ終局ノ目的ヲ達センコトヲ期ス

朕ハ此ノ時ニ方リ國務大臣ニ命シテ國防ノ充實其他國運ノ伸張ニ必要ナル諸般計畫ヲ定メシメ大正七年度豫算案及ビ法律案ヲ帝國議會ニ提出セシム卿等和衷審議以テ協贊ノ任ヲ竭シ朕カ望ム所ニ副ヘヨ

▲下院奉答文可決 衆議院にては二十七日午前十一時半開會各派より奉答文起草委員を擧け元田肇氏委員長の下に奉答文を起草滿場一致可決正午散會せり（東京特電）

◎支那兵撤退要求

露軍司令官に訓令を發し同地外國軍隊の撤退を求めしめたり（露都電報）

トロツキー氏は哈爾賓駐在[illegible]

◆歸京せる長谷川總督（二十七日夜南大門にて）

◎露支兵衝突別報

▽哈爾賓秩序回復す

其筋着電に依れば二十四日在哈爾賓支那軍司令官は同市に於ける過激派幹部の退去及び過激派に屬する國民兵二個大隊の解散を要求する旨通牒を發せり右通牒は二十五日を日限とせるがトロツキー派の過激派幹部に自派の力到底支持し難きを知り歸國せんことせしが部の間に不平者を生じ二十六日午前九時より約一時間半に亘り支那兵と衝突し多少死傷者を出せり露兵は武器の讓渡を條件として降伏せり其の數約二千五百に達す十時支那道尹は領事團に對し既に露兵を服せるを以て秩序回復せる旨を通告する所ありたり（東京特電）

◎レーニン失脚す

▽逃走の準備中

[illegible]ペトログラード來電に依れば[illegible]露國過激派政府首領レーニン氏は[illegible]逃亡す可く準備しつゝあり外相トロツキー氏は結果如何に拘らず留任する決心にて一方國民代表委員等は若し目下進行中の露獨講和にして失敗せば權力を憲法議會に委ねんと準備しつゝあり（東京特電）

◎占領地撤退要求

▽過激派の講和條件

過激派の講和條件中には獨軍は其の占領地より直ちに撤退す可しとの要求含まれ居れり（[illegible]）

◎林公使の車中談

【奉天特電】二十六日夜奉天發安奉線にて東上せる林公使の談に曰く

支那の紛糾は今尚ほ五六年間も繼く可し之を土耳古に見るも佛蘭西革命當時に比較するも五六年の歳月は當然なり今後支那に於て一大勢力を有する統一者現はれざる限り現時南北の爭ひの如きは今後も亦同様なり

南征軍の眞目的は哈爾賓出兵は受動的[illegible]の評判は何うでも好い[illegible]時代に日本に於ける明治維新に徴するも西南戰爭迄には幾多の變遷を經過せるに非ずや[illegible]

▲段前總理の 現職は別段[illegible]非ざる北勢力復活と云ふ[illegible]可けれど元來段内閣の辭職も北洋派の勢力が落膽の餘りなれば北洋派は復活せし左様に輕々しく失墜せしとも思はれず又總統[illegible]にしても現状に滿足し居るものに非ざる可けれど何分支那は理窟を以て律し難き如うたり、南征軍は目下出兵せるも是は單に政府の主張を徹す可く威力を示すに止まる可く之を南方討伐と稱するは文字妥當ならずと信ず

▲又兵器借款の如きも相當時日を要す可き事にして輕々に論議す可き問題に非ず、次に露西亞に就ては假令過激派の天下となるとも現下の如き無秩序の有様にては不可なる事と悟るに至る可し哈爾賓に於ける支那兵は別に支那より進みて派兵せるに非ずして只ホルワット長官が過激派を鎭壓する爲め外國の兵力を藉る可しとの事なりしを以て支那の派兵を[illegible]

◎通信收入概況

大正六年度十一月分全道通信事業收入は[illegible]十二萬[illegible]千七百六十八圓にして前年度同期に比し[illegible]萬[illegible]千五百[illegible]十圓[illegible]增收なり[illegible]

◎京城電氣成績

京城電氣會社の今期成績は來る三十一日を以て締切り決算を了す[illegible]十一月下旬に至り成績の概要を聞くに今期營業成績は同社既約の如く石炭の暴騰は同社に影響する所ありしも上今期は左して打撃を蒙らず電燈も電車瓦斯等も順調に發展し電燈四十三萬餘圓電車二十五萬餘圓瓦斯十三萬餘圓等の收入あり其他合計總收入八十五萬圓支出約三十八萬圓にして差引利益金四十七萬圓内工業費償却七萬圓を控除し殘り四十萬圓の益金ある計算なれば今期株主配當を前記同様九分とせば三十萬圓となり猶約十萬四千七百五十圓の餘裕あれば此内より諸積立金[illegible]

◎總督歸京

東上中なりし長谷川總督は秘書官、齋藤大島兩副官、[illegible]等を隨へ二十七日午後七時南大門驛着の列車にて歸京したるが山縣政務總監、[illegible]長官、[illegible]松永[illegible]各局長官其他多數の出迎ありたり

▲御饌を賜ひ[illegible]

▲余等も勸め[illegible]然るに哈爾賓に於ける支那[illegible]態然たる態度は洵に賞讃するに餘りある事にして支那としては大出來なり、余の歸任期日は未定なるも東京にて小供等と共に正月を迎へるつもりなり、新聞紙上に於ける余の評判は兎も角何をしても[illegible]して[illegible]時に國家の爲め[illegible]は何時も[illegible]

◎林公使通過

既報の如く支那駐在公使林權助男は從者一名を隨へ二十七日夜京城通過東上せり南大門驛には國分李王職次官其他多數の迎送者あり

◎軍司令官歸任

松川[illegible]は[illegible]地方に出張中なりし[illegible]二十七日夜歸任せり

◎印紙收入狀況

[illegible]十一月分印紙收入は[illegible]十五萬[illegible]七十七圓同月迄の累計は二百七十一萬二千七百四十五圓にして前年度同期の收入に比すれば[illegible]九十六萬二千八百七十五圓を增收せり

◎畜産組合新設

[illegible]朝鮮重要物産同業組合に據り今般牛の生産改良及賣買の仲介を業務とする畜産同業組合の設立を許可せられたるもの左の如し

[illegible]郡畜産同業組合▲[illegible]郡畜産同業組合[illegible]

◎趙子爵經過良好

趙重應子爵は宿痾の爲め臥床一時は重態なりしも佐藤博士の診察を受け最近漸く經過良好に赴きつゝあるも博士の注意に基き嚴に面會を謝絕し支那を專とし居れり二十六日芳賀博士も又子爵の病床を訪ひ親しく診察したるが佐藤博士同様の注意[illegible]

◎東洋協會改稱

拓殖大學

東洋協會植民專門學校は今回私立拓殖大學と改稱し文部大臣の認可を得たり（東京特電）

◎青山博士葬儀

故青山胤通博士の葬儀は二十七日午後一時半青山齋場にて行はれ會葬者二千餘名に上り有栖川宮家御下賜の榊を始め寺内首相以下各大臣大隈侯其他より寄贈の盛花等夥しく平田靈主の誄詞朗讀に始まり岡田文相山川帝國大學總長等の弔詞あり一時遺骸を谷中墓地に葬れり（東京特電）

◎個滿鐵理事辭職

滿鐵個[illegible]理事は滿期にて廿五日限り辭職したるが川上理事は重任し川上理事の後任として會計部長たる可し（大連特電）

[illegible]十年度末迄には二百七十萬圓程度の歳入見込にて[illegible]六年度には二百四十九萬一千圓にして六年度豫算百四十七萬三千圓に比し增收百二萬八千圓なるが六年度實收見込は[illegible]度通信收入總額は少なくとも三百五百八十一圓に比し增收七萬一千[illegible]に達すべき模樣なれば更に七年[illegible]に見るに收入總豫算は十六萬七千百九十八圓にして六年度豫算九萬四千[illegible]末迄には非常の多額に達すべきを樣なれば七年度實收も從て豫算以上の巨額に達すべく豫想せらる[illegible]しつゝあるも近年其の兆候益々顯著なるものあり今最近五箇年間に於ける收入を[illegible]の有様を示せば左[illegible]

◎仁川大神宮祭典 仁川大神宮[illegible]では三十一日午後八時より大祓式を一月一日午前[illegible]時より[illegible]

[illegible]

支那人の[illegible]七百四十一人[illegible]朝鮮人[illegible]日本人[illegible]支那人[illegible]

[illegible]米國人五呎八吋八[illegible]佛國人五呎五時、英國人五呎六時[illegible]伊太利人五呎四時[illegible]白耳義人五呎六時[illegible]

▲二十四日總督府の事務室で松本誠之君が兒玉君に[illegible]「オイ君もチト[illegible]を改良しては何うだ」と怨まれ口を叩くと▲兒玉君「何んだ」と云ひなり松本君の頭をコツキ廻した擧句▲「烏渡廊下へ出ろ」と來たので隣り新妻の杉英五郎君が仲裁に這入つて▲「マア〳〵止めて呉れ給へ君等は宴う云ふ事をするから僕は服會せねばならなくなるのだ」でやつと睨み合ひで納まつたとは目出度く

▲歳晩持地長官宴席上小生の東嶺長官の詩韻に次せしもの御笑覽被下度

服部江南

[illegible]

百竈百種

[illegible]

人事消息

[illegible]支那見聞談 朝鮮休戰

◎日清生命出張所昇格 京城黄金町二丁目日清生命保險會社朝鮮出張所は逐年營業成績良好なる爲め明年一月一日より支社に昇格する由

[illegible]

新年號 家庭雜誌 ─ 家庭雜誌の特色を示せる美觀！ 東京本町 博文館發行 振替東京二四[illegible]

新年大附錄 わかれ霜（小説）[illegible] 鶴媛[illegible] 春の[illegible]

特別記事 四季[illegible]雜[illegible] 婦人作法[illegible] 訪[illegible]感想[illegible]

[illegible]夫婦[illegible]語[illegible]

女學世界

新年大附錄 七つ目（家庭小説）[illegible] 狂女の瞳（小説）岡本綺堂 妹の縁談（小説）[illegible] 橘姫の話（小説）柳田國男

[illegible]の教育 五名家の適切なる意見

[illegible]婦人[illegible]教育 澤柳博士

寒針月錄 與謝野晶子

陽炎

婦人の問題に就て 田子夫人

アメリカ婦人雜誌[illegible] 芳賀博士

影とまこと 茅野雅子

[illegible]歴史小説 中井晚村

[illegible]家庭[illegible]悲劇 巖谷小波

[illegible]職感心婦人 五職業婦人の實例模範

新年大附錄 [illegible]冬の歌 窪田空穗 幸福の線（お伽噺）小野小峽 櫻山の夜がたり 速水[illegible]子 子供に感冒の法 [illegible] 諸國正月の奇風俗 白[illegible] 女學校通信 [illegible]手帳 君[illegible]子

本號特別大增 定價一冊三十錢 [illegible]

淑女畫報

報畫

[illegible]風俗今昔の婚禮姿 ▲高貴の方々の最近の御影 ▲名家夫人の麗容と新婚の花の姿 ▲名流令孃の[illegible]初めいろ〳〵

須磨明石新婚旅行の漂泊（十三景）

其他鮮麗なる寫眞五十頁滿載

日本婦人の二典型…谷本文學博士

賢婦人傳（史外の史傳）笹川臨風

私の扮した悲劇の女主人公…河合武雄

食養法より見たる正月料理 石塚左玄

忠臣藏七人女…伊原青々園

新年大附錄 伯爵夫人の思ひ出（實譚）[illegible] 新鏡山（實説）岡本綺堂 漂泊の女繪師（哀話）木村[illegible]

▲自然養生「土浴」の効驗…… ▲美しい子供心を虐げる母親 ▲精神の衛生法……富士川博士 ▲歌留多會の魂膽……奥野他見男 ▲京の夢大阪の夢……白雲猫 ▲諸病全治珍しき療法の實驗

光の門（家庭小説）小栗風葉

本號特別增大 定價一冊五十錢

戰を命ぜられつゝ[illegible]は兩度日本取消しを勸告中との電報[illegible]社令や紛を解かん事を希ふ北方の出兵は地方鎭靜の爲めなり誤解を爲す勿れ侵略の野心を持つ者あらば公の敵と爲さん[illegible]

府 通信增收

關東都督府來年度豫算案は近々大藏省に於ける査定終了決定したるが右の内通信及び印紙收入の内容を聞くに

▲七年度通信收入 豫算[illegible]現計は百七十萬二千九百四十八圓にて六年度收入豫算を超過する十萬圓に達するの好況也七年度の豫算事實に二十三萬圓に及び居る次第

▲印紙收入增加 狀況を見るに六年度豫算に比すれば約百五[illegible]十一月迄[illegible]既に十三萬五千圓に達し豫算を超過する事既に四萬圓以上に及ぶ現計は既に[illegible]を以て本年度增收も年度[illegible]

▲關東州通信收入 は朝鮮其他の植民地に比較するに豫算に比し非常の好成績なり[illegible]

冬宮乘取の一幕 (四)

銃を棄てて掠奪

砲彈炸裂の音▲三度目の動搖▲自由を與へるか▲絶對拒絶▲冬宮破壞▲パンの掠奪▲之が戰爭の目的か▲唾棄倶だ▲徒然で虐殺し

要塞と軍艦から撃出す巨砲の音と機關銃の音は時々刻々と激しくなつて來た砲彈に呪はれた大都は今や破滅の日が來たかのやう大地に腹這つて耳を覆うて居た私は冷汗にびつしよりになつて生きた心地もなかつた併し

●砲彈の[illegible]

冬宮を破壞するのも惜しい冬宮内に收容してある五六百の傷病兵を鏖殺するは更らに忍びないであらう炸裂の音は遠く微かに聞ゆるのみで市内に落下する模樣は毫もなかつた、私は厭だと思つたが頭を擧げる事は出來ない恰度深い淵に陷込んで岸に上る事も出來ないやうな心理狀態のまゝで二三十分も經過すると砲聲は一時に熄んで暗黒な

●大地は再び沈默に返る すると又大學生が勅使となつて歴山王記念塔の傍にやつて來た『朋輩!頑強に抵抗するのも考へ者だぞ早く開城しないか』『城を渡せば吾々に自由を與へるか』と士官候補生の聲『絶對の自由を保證する武器を渡して早く立退け』と大學生が言ふと婦人兵は『我等に凌辱を加へずして解散を許すか』『許す』其處で開城談判は成立して愈々冬宮を過激派の手に渡す事となるや否や冬宮の内外を包圍して居た兵士は皆銃を棄てゝ正門に押寄せた私も立上つて正門前に走つて行くともう此時は二三十人の兵士は裏門から宮殿内に闖入した模樣らしかつた

●けたたましい女の叫喚が朝を裂くやうに響く此を見た正門前の兵士は『門を開け!門を開け!』と喚鳴りながら窓を破壞して内部に飛び入つて門番を脅迫して門を開いた、と百數十名の兵士は怒號しつゝ躍り込んだが暫くすると或者はパンを兩手に持ち或者はウヰスキーを叩りながらウラーウラーと連呼して出る來る踊々と躍り出す兵士は皆負傷兵のパンや器物や衣類を掠奪したり五六人で婦人兵を引擁いで淫氣揚々と廣場の方に引揚げて行く、之を見て私は件の大學生に向つて『之が冬宮攻撃の目的か、之が政權奪取の爲めの戰か、君恥かしくないか』と我を忘れて喚鳴りつけると大學生も天を仰いで『唾棄倶だ、度し難い[illegible]ものは暗愚の民だ、あゝ』と嘆息して居たが

●最早如何ともし難い 保證するといふ[illegible]士官候補生が武裝を解て退散しやうと[illegible]つかみと過激派の兵士は[illegible]頰を叩きながら[illegible]抵抗した虐殺[illegible]ない者は足を執つて大地を引摺りながら鯨波を作つて走る、或ものは銃劍の尖で小突いて廻り殺す阿修羅の如き兵士の冬宮内外は阿鼻叫喚と婦人兵の悲鳴[illegible]地獄のやうな[illegible]

李王世子御披露宴

皇族各宮殿下を御招待遊ばさる

李王世子殿下には二十五日歩兵少尉に任官あらせられたるに就き御披露の爲め二十七日午後六時より閑院宮載仁親王、東伏見宮依仁親王、朝香宮鳩彦王、北白川宮成久王、東久邇宮稔彦王各殿下を御招待御晩餐を催させられ波多野宮相、内山侍從武官長、末松謙澄子、上原參謀總長等に晩餐を賜ひたり(東京特電)

相場でないこの頃の魚價

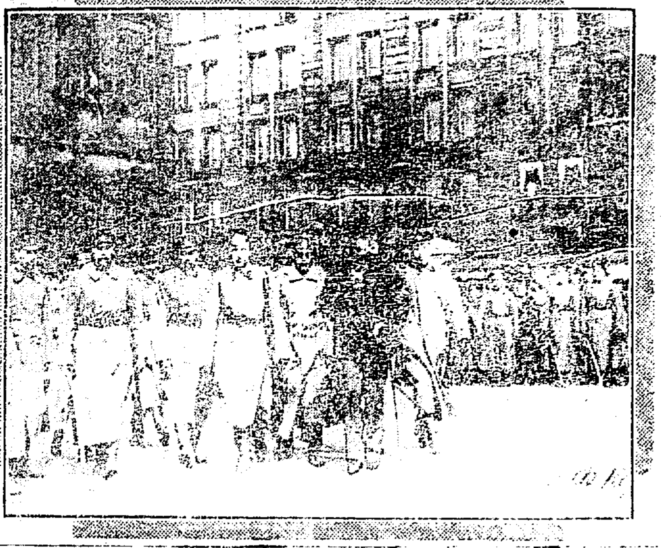
飛び切りの高値=内地へドシドシ移出

例年の事ではあるが年末に際して魚類の拂底と相場の昂騰には大分頭を惱ませられるが本年の魚價に至つては無類飛切の高値を現出して殆んど

▲相場の標準 が取れないと言ふ狀態、某當業者曰く『從來朝鮮の需給狀態は獨立して居つたのですが本年は内地にどし〳〵移出されるやうになつた爲め水の低きに流るゝやうに鮮内の供給は少くなつて内地行きが增加して參りましたのみならず北陸道から山陰道沿岸に亘つて鰤が[illegible]

▲近年にない 不漁[illegible]たから内地も[illegible]日々數千本の入荷[illegible]は入荷皆無の姿です從つて内地から入る魚類は對州、長崎、馬關方面から[illegible]ホンの僅かに釜山方面から[illegible]には下關阪神地方から買付が來て

▲水揚げを待つて 纏めて持つて行くと言ふ狀態ですから魚の拂底は免れない現象です目下京城に仕向ける地方は釜山、浦項、千浦、麗水等重なる魚類は鯛、サハラ、ブリ、ヒラメ、コノシロ、サンマ[illegible]



危機に迫れるケレンスキー内閣員 (冬宮廣場前の撮影×印はケレンスキー氏)

市場の建値

であるが其相場は二十七日朝[illegible] 市場の建値 で鯛十貫目八十圓位、ブリ十貫目二十圓サバ十一圓七十錢[illegible]十四五圓車蝦は百圓アサヒ八十圓と言ふ突飛な價段で驚いたばかりで眼を白く致します今後の豫想は海岸地方に西風が吹いて

▲寒非に寒冷 であるから不漁は當分續く見込みであるし對州其他の方面から入荷の通知があつても[illegible]昨今大晦日までに間に合ふか否かは頗る疑問であるから愈々品薄を見るであらう

一家三名慘殺

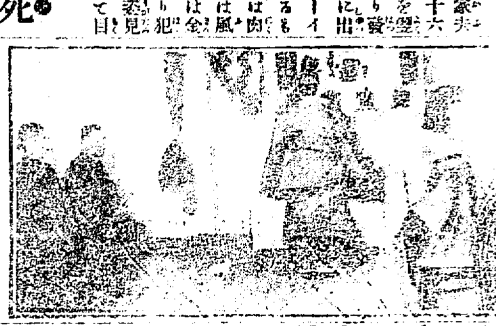
長春の慘劇

犯人は支那ボーイか 長春附屬地島居屋御園湯の一家夫婦及び七歳の子供の三名は二十六日夜何者にか慘殺され居たるを發見され大騷ぎとなり警官同家に出張取調べたるに主人は裏のボーイ部屋前にて[illegible]子は寢室にて[illegible]慘の最期を遂げ居り兇器は肉切り庖丁と短銃にて此の二品は風呂場の中より現はれたり兇徒は全く不明なるも支那ボーイの姿見えざれば同人の所爲ならんとて目下嚴探中なり(長春特電)

故青山博士追悼會

故青山胤通博士の追悼會を二十七日午後四時より[illegible]

[illegible]檢事局へ送られたり



總督府醫院長芳賀博士及び和田京城醫院[illegible]十分終了したるが來會者は前記諸氏の外總督府醫院醫官及び佐藤部長[illegible]六十餘名なりし

歳末の朝鮮町

昔のまゝに舊暦の正月を迎へる者が多い

本町あたりの何ともなくせはしない氣分に引換へて朝鮮町はまるで眠つてゐる樣にひつそりとしてゐる、朝鮮では元來舊暦を使つてゐたために一般は舊暦によつて來た、しかしそれには色々な不便が生ずるために[illegible]新曆を實行を[illegible]したが[illegible]依然舊暦ばかりを使ひ[illegible]取引上の關係から[illegible]の年を迎へる者が大分多くなつて來た、しかしそれも必要上の事であつて本當に心から祝ふのは何んと云つても矢張り舊暦の御正月らしい

[illegible]り直に大擧猪狩を企て翌十五日首尾よく是れを射殺したるが此の猪は體量八十貫あり近來稀なる大猪なりと

大正館が國の光を出す

浪花亭右圓[illegible]歌六、三遊亭右圓外四名合計十名で落語、音曲、手踊、記憶術、曲藝の取合せ澤山で元日から三月まで晝夜二回開演の大勉強、活動の方では[illegible]この寫眞は米國ヴァイタグラフ會社の作製したもので[illegible]大統領が[illegible]に際して[illegible]

穴家で燒死

[illegible]二十日午前三時頃[illegible]西面[illegible]里所在水車小屋[illegible]より發火し[illegible]七八歳位の乞食體の男一名燒死し居るを發見し損害は約十五圓

主人に非ず

去る五日紙上に[illegible]運送店[illegible]の大混取り事件に對し運送店主人[illegible]

難破して凍死

去る十八日午前十時頃全南務安郡[illegible]

●通俗講演會 來る一月六日午後一時より[illegible]

十一年間に初めての寒さ

五日間の平均温度は零下十二度

今年の冬は昨年より寒さが酷い、昨年の十二月中に於ける一番寒かつた十二月二十六日ですら攝氏零下十九度であつたが本年の十二月二十七日朝は攝氏零下二十度四で華氏に直しても[illegible]度である、一體に本年末の寒氣は猛烈である樣だが十二月二十一日より二十五日の五日間の平均温度は零下十二度で昨年の同期は零下四度、平年は同零下六度であるから京城測候所創立以來同期としては是迄十一年間に無い寒氣と云はねばならぬ

東京は零下六度

十五年來の新記錄 東京は二十六日朝の氣温氷點下六度六分に下り明治十五年以來の最低温度の新記錄を得たり

猛猪に噛まる

平南成川郡成川面社田里所在寶田鑛山鑛夫吳學周(三四)が鑛内の作業を終つて十三日午後三時頃唯一人山路を辿り事務所の方へ來る途中突然一頭の大猪前面より牙を鳴らして現はれ出で[illegible]に向つて突進し來りて同人の腹部其他十數箇所を噛傷したり此の悲鳴に應じて附近の鑛夫等駈け附け猪を追ひ除け辛くにして救助し直に事務所に擔ぎ込み應急手當を加へたるも翌朝午前四時遂に死亡したり一方此の報を聞きたる附近住民はそれよ

不正漁夫檢擧

[illegible]北條村生れの漁夫板谷[illegible]

坑夫十名慘死

石川縣尾小谷鑛山坑夫小屋は二十六日雪崩の爲め倒壞十名慘死せり(大阪特電)

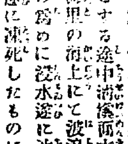
來春の演藝界

芝居に落語に活動寫眞

一月の京城演藝界は内地各方面の好景氣のために注意すべき程の大名題は來ないが

▲壽座は舊俳優 で竹で[illegible]頭に女形としては腕利きの尾上多摩之丞、市川鯉玉、中村鯛太郎、東太郎といつた阪東巴左衛門を座に今年の春壽座に來て好評を博した市川鶴之助が加はつて二十七日の晩京城へ著乗込んで來た、一座は顏見世の代りに三十一日の晩二十錢均一で開場、元日から改めて開場するさうだ、三十一日の藝題は式三番引抜きだんまり、蝶千鳥曾我實記、切所作事釣女

▲浪花舘は落語 で開演、その顏觸れは東京柳連春風亭柳窓を眞打として同文團次、水蔭亭[illegible]



▲東嶺持地長官は先般東上の砌、暇を偸みて古書を漁り偶々名古屋の耶律楚材の詩集たる湛然居士文集を手に入れた、▲抑も湛然居士は人も知る遼の王族で、元の太祖の佐命の元勲として、蜀の諸葛孔明以來の大政治家と稱されて居る、太祖と耶律楚材の君臣水魚の交に於て亦、孔明と玄德とに匹如して居る▲政治に於て孔子を祖とし、心を治むるは佛法に依り、延命保壽の道は老に待つといふ、三教統一の代表者とも推重された人▲佛教に就ては當時斯界の名匠萬松老人に從つて闡法の弟子とも許されたもので、茲に萬松老人の序が載せられてある▲然してその詩は經書及び佛書の字句を選つて自在なる點に於て氣韻ある特徴が有る▲東嶺長官は雅友に誇示する方に此の珍書を持歸り、或は常に案頭に耽讀して居るさうな▲長官一詩あり。萬里混同誰定基。雄圖鴻業曠前古。不負當用好逢時。楚材偶然天賜之。

新年增大 [illegible] 號

新年特別附錄 ◎割 婦人待合室 松居松葉
舞ふ小禽 長谷川時雨
ある名妓に 尾島菊子
可愛い人達 岡田八千代
元日生れ
子供の正月の思ひ出
子供の正月 田中ふさ子
◎子供にする學資金 (いくらあつたらいいか詳細分る)
嬰兒の著物
晩時の手當
生兒乳の與へ方
長篇小說 須磨子 菊池幽芳
簡單な子供室
罪なき子供の想像
子供本位の家庭
子供の生れた喜び
子稿者の家庭
嬰兒のおむつ
朝鮮のお伽噺
子供のお伽噺
東京 東京社

育て方
子供と影響
子供と小遣
小學校か家庭
子供と家庭
愛情と教育
不良兒の家庭
芽を遊ぶ子寶
子寶とは何
貰ひ子の扱ひ方
戰後の産兒

日繪 ◎松島 ◎春の海

購買土地調査局

廣告

日韓印刷

歳暮に大賣出 各國洋酒 洋菓子 大[illegible]商店

最新刊

大阪屋號書店

京日案内

商品切手 丸五商會

◎はねつき

一切の治療御依頼に應ず 明治町 柔術道場

櫻御殿

第百八回
編笠浪人（三）
大阪　霞の家主人

この茅屋の主は云ふまでもなく風早利右衛門である。芳野の兄の風早利右衛門である。昔は三河武士の神髓を彫み、心に忠雄義烈の魂を宿して、一劍長へに錆びざる氣節を持つて、一たんは徳川家に仕へたが、彼の負けるのが嫌ひな性と、枉げることの爲きぬ氣象とは、兎もすると權謀術策を事とする同僚の一の柄物として、多くの場合に望ましからぬ際を取らうとする同役その意氣が合はぬので、關ヶ原陣の起らうとする前浪人し、妾のおるゐと別れて、一人女の桐島を伴ひ、一時本國の三河へ歸つたが、見る物、聞く物、一として不平の種とならぬのは無いので、遂は諸國を流浪して、大阪の福島に詫住居した

されど貯への金は無く、扶助をする親戚は無く、加之に朝から大酒して、少しも生計向の事を考へぬので、桐島のみが苦勞の胸を抱いて、ついぞ覺れぬ貧苦の袖に、酒も包めば味噌も包む、明日の糧にさしつかへると云つては、一枚の著物も脱ぎ、父のお仕著の下物の爲めに、髪の道具も手放して、軒には雨が漏り、袂には涙がかゝる、それでも利右衛門は可憐さうな顏を見せず、醉ふては寐、覺めては飲む、『お父さま、もうお鳥目がございません、明日のお小使を何う致しませう』と云ふと、利右衛門は朱鞘の刀を取り上げて『心配するな、乃公が都合をつけて來る』と云つては出かける、さうして多少の金銀を持つて歸る

桐島は最初少しも心付かなかつたが、ある夜利右衛門の脛にべつたりと血潮が著いて居るのを見て『お父さま、何う遊ばしました』と訊くと、利右衛門は[illegible]『町人の血ぢや[illegible]』と云つた、それに不審して段々[illegible]き糺すと、有らうことか有るまいことか、宵々四辻に立つて居て辻切をするものと知れた『まあ、恐しい、その様な事をなすつてまで、御酒が召し上りたいのでございますか』と恨み云ふと『なにさ、町人の命は酒一合ぐらゐの價打ちや、武士の刀にかけて殺せば、すぐ極樂往生ぢや、惡事どころか、却て、慈悲を見せて遣るのぢや』と平氣で云ふ

桐島は涙ながら意見するが、それに頓著なく鰻さと出て行く、お鳥目のない事を申し上げると、すぐ辻切にお出掛け遊ばす、成るべく申し上げないように氣を注けねばならぬと思ふが、女の手で何うすることも爲きない、今とは違つて此の頃の福島は隣家へ五六町もある片田舍で何をすることも爲きなかつたが、それでも骨身を惜まず[illegible]いたらお父さまの所爲くらゐは止まるかも分らぬと覺悟して『お裁縫物でもお洗濯物でもございましたらお爲せなすつて下さいまし』と注ふ人ごとに頼んで[illegible]くれて、何不自由もなく暮らせる身が、世が世であつたら下女神間に[illegible]が、窶れた姿をして賃仕事を探して歩く『眞に人の運命ほど分らぬものはございません』と心ある者は泣いてくれる

けれど利右衛門は[illegible]その姿を見ると[illegible]になつて居るような[illegible]

『お酒は取つて參ります、それはかりは御免下さいまし』[illegible]の前を[illegible]へたまゝ泣き入るのを、利右衛門は跳ね除けて『お身に苦勞を掛けるよりは、刀に苦勞を掛けたが増ぢや、留守を爲、ぎつとり土産を持て歸るぞ』

西洋料理　すき燒　カフエークイガー
鐵砲修繕　玉井銃砲工場

時局對策研究

東京商業會議所に於ける時局調査會は第一會を廿四日午前三時より[illegible]各對策を研究する事となり五時半散會せり（東京）

（一）戰後の關稅問題（二）戰時及戰後に於ける支那問題を研究し[illegible]する爲には如何なる手段を講ず可き乎（五）對外貿易の擴張を促進する事（六）海外市場に於ける嗜好の異動需給關係に關する諸般の調査を遂げ我生產品の販路[illegible]

海運界の波瀾　明年春季觀測

明年初より三月頃迄は近海航路傭船料[illegible]一圓乃至十一圓遠洋十二圓[illegible]

傭貨船の商談　殆ど途絕

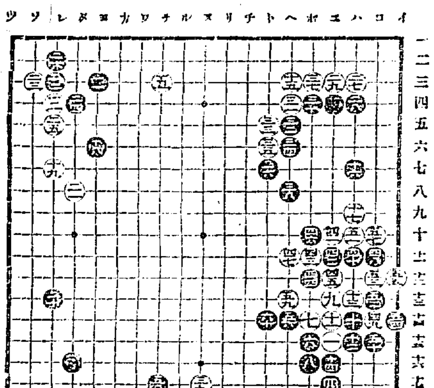
[illegible]洋二十圓近海二十二圓即ち遠洋に二圓方近海十六圓方低落し而も施行當時に於ては賣買は素より[illegible]理合に慣れて實施當時の如き窮窘を感ぜざるに至りて稍持直し遠洋界に至りては樂悲兩樣の觀察あり[illegible]三十二圓近海二十二三四圓見當迄[illegible]傭船料の騰貴を示せるが兎に角冬期の共稼保合の狀況を持續[illegible]料の騰貴するあらむ乎とは船主側多數の觀測也但し前記の如く戰時中なるが故に爾後如何なる壓迫若くは妨害事實の起らぬに限らず[illegible]

碁戰

十一番　第三局の三

三段　山平壽氏　二子　大久保雅彥氏

白二の十四（一十一）より黑卜の十四（六十）手迄



新刊紹介

▲大奥の女中（池田晃淵著）中々陋さ…[illegible]

▲ファウスト（森林太郎譯）[illegible]（東京神田[illegible]）

▲婦人週報（三の五〇）[illegible]

寫眞版　京城日報社寫眞製版部

インクレッシー商會　京城本町二丁目　電話九七二番

懐中時計

▲書籍御案内▼

世界の變局

理想の家庭

自然と人生

青山白雲

▲麗鷄と園藝　▲東洋皮革雜誌　▲堤一〇　▲鐵鵬集　▲傷閑　▲報徳　▲月報　▲朝鮮鐵道青年

天覽台覽

蘇峰文選

明治大正年間の一大產物！

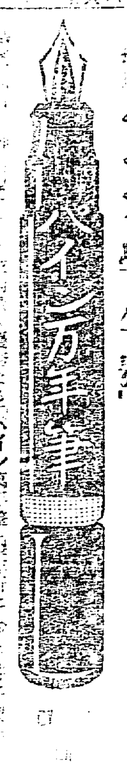
賣捌所　京城日報社代理部

本書は國民新聞創刊二十五年記念出版にして、蘇峰學人が三十年の記者生活に於ける努力の代表的傑作の結晶たると共に、文章報國の天職とする學人彼れ自身の活歷史たるのみならず、又た一部の明治史也、國力發展史也、文學史也、社會活史也、即ち明治大正日本國民必讀の教科書、精神的修養の糧食、謙讓なる文章の模範也。孟子の所謂る集めて大成するとは、本書の如きを謂ふ可く、發行以來江湖の大歡迎を博したる決して偶然に非ざる也。

京城太平通二丁目　振替京城三〇〇番

發行所　東京民友社

總クロース上製函入　菊版一千五百餘頁　定價金三圓五十錢　特價金三圓　郵稅二十四錢



パイン萬年筆「學生號」

パイン萬年筆は[illegible]エボナイト[illegible]耐久力高價の萬年筆に少しも劣らず

賣元　京城日報社代理部

朝鮮鑛石學探鑛法

▲有用鑛石鑑定表、朝鮮鑛業令、探鑛法、發見法、石分拆鑑定法、各地質鑛脈、鑛山所在地

鑛物に趣味を有する初學者にも一讀了解し得る樣に述せり當業者諸氏の是非參考書也と信ず

安藤啓四郎著　發行所　ウツボヤ書籍店　定價四十錢

朝鮮總督府編

朝鮮藥草植物調査書

本書は公にせられたる學校、病院、醫生、藥店、植物採集者より大好評を以て迎へらるゝ唯一の漢方藥料原名の外鮮名、効用、產地には漢藥の價格表を付す朝鮮に於ける藥用植物書なり

四六版洋裝　定價九十錢　郵稅六錢

賣捌元　京城日報社代理部

發行所　ウツボヤ書籍店

貯蓄預金

元金百圓ニ付日歩壹錢三厘　金壹錢以上何程ニテモ御預申候

株式會社長崎貯蓄銀行代理店

株式會社十八銀行京城支店

同　龍山出張所

貯蓄預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候

ヒゲタ醬油

銚子港　田中玄蕃釀造

代理店　京城明治町一丁目　山邑京城支店

產科婦人科　二宮醫院　京城壽町　電話一二〇一番　醫學士　二宮亮吉

醇良無双清酒

品質無双衛生的

醸造元　福岡縣城島町　首藤合名會社

發賣元　首藤京城支店　京城府黃金町二丁目　電話一一七一番

首藤釜山支店　釜山港幸町　電話三四三番

外科　皮膚科　內科　花柳病　小兒科

島崎病院

京城旭町一丁目（本町通り左に入る）電話二七三六番

院長　正六位勳四等功五級　島崎龍一

入院隨意　診察從九時迄

大阪商船株式會社　汽船出帆廣告

仁川出帆

大連行		
安東丸	十二月八日	午二時出

[illegible]

朝鮮郵船　出帆

元山より北鮮各地經由雄基行

京城丸　十二月二十八日

成鏡丸

[illegible]

尼崎汽船　仁川出帆

群山、木浦、釜山、下關、神戶、大阪行

秀吉丸　十二月廿九日午後四時出

大有丸　十二月廿九日後四時出

赤城丸　十二月廿六日後四時出

君が代丸

日本郵船　仁川出帆

大連行、秦皇島行

相模丸　十一月十日

竹島丸　一月十日

淡路丸　十二月廿九日　正午出

共同汽船　仁川出帆

大連行　芝罘

共同丸　十二月廿八日午後八時

阿波共同汽船株式會社

仁川代理店　野口商會

元山代理店

京城取次店